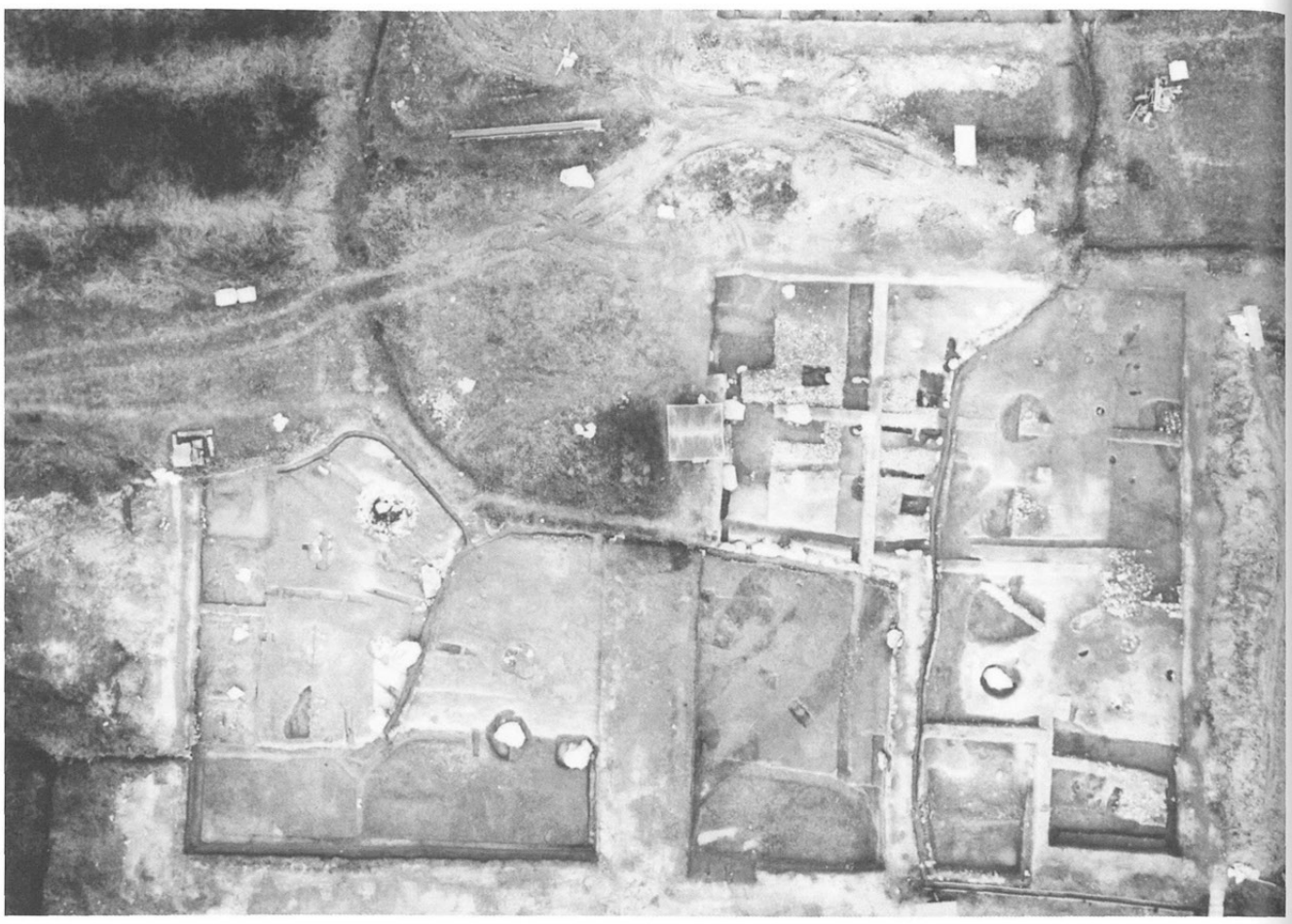
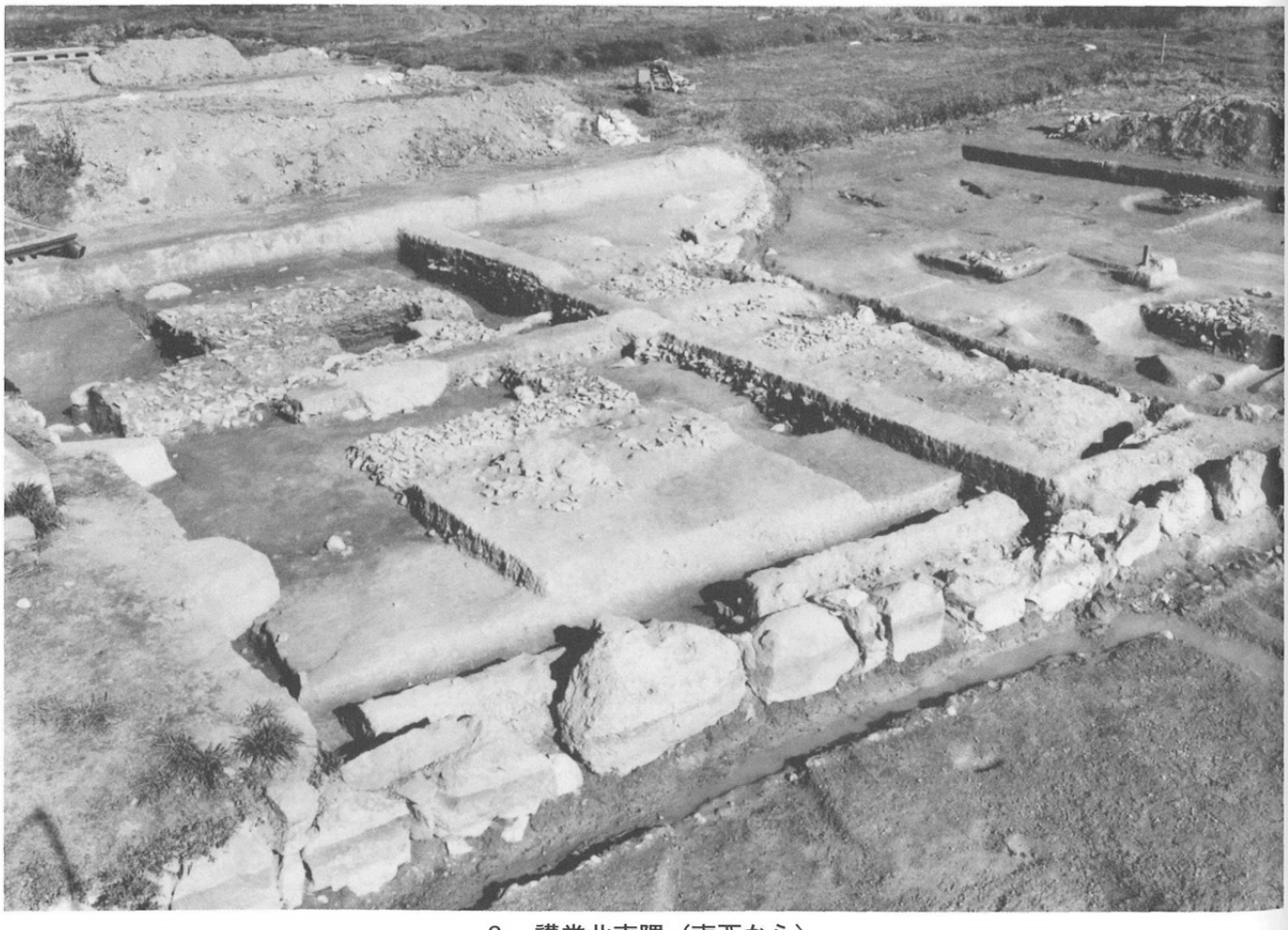
1　金堂　礎石７（東から）

2　金堂
石敷１（北東から）

3　金堂
雨落ち溝１断面
（東から）



1　講堂全景（上が北）



2　講堂北東隅（南西から）

1　講堂西部と北面回廊（西から）

2　講堂北東隅（北から）

図版16

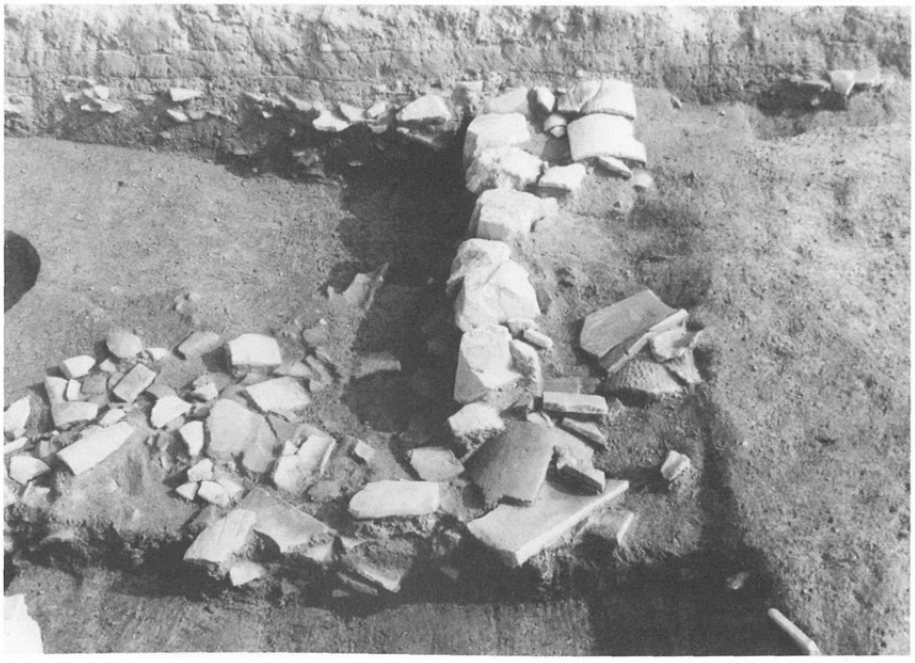
1　講堂
雨落ち溝２瓦だまり
（西から）

2　講堂
雨落ち溝２瓦だまり
（北西から）

3　講堂　雨落ち溝２
軒平瓦出土状況
（西から）

1　講堂　礎石32・35
（南東から）

2　北面回廊
白磁椀等出土状況
（南西から）



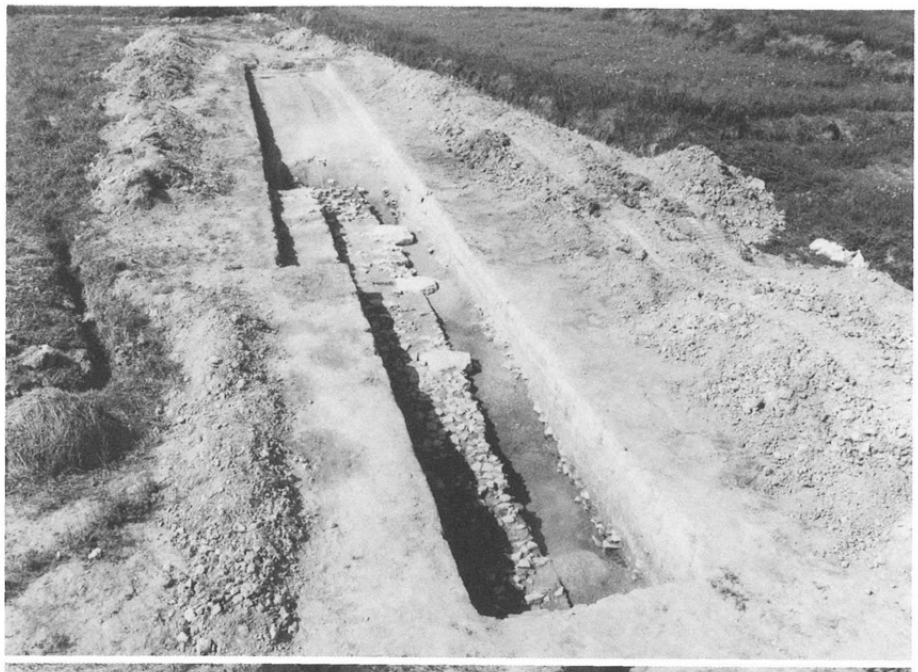
3　北面回廊　石列１
（西から）

図版18

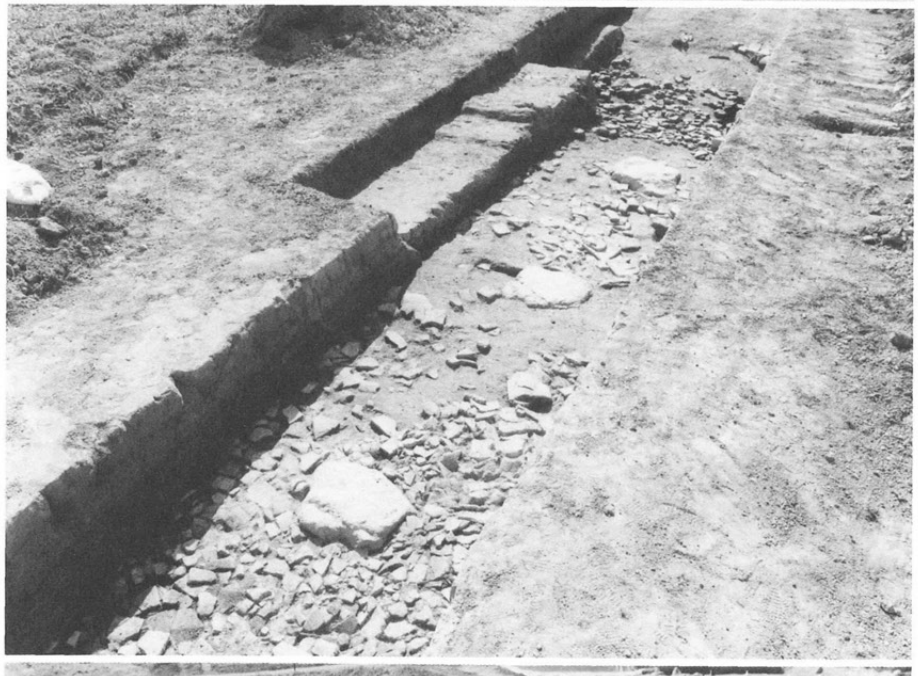
1　Ｔ４
北面回廊（北西から）

2　Ｔ４
北面回廊南側基壇斜面
屋根瓦の倒壊状況
（北西から）

3　Ｔ４
礎石41周辺
遺物出土状況（北から）



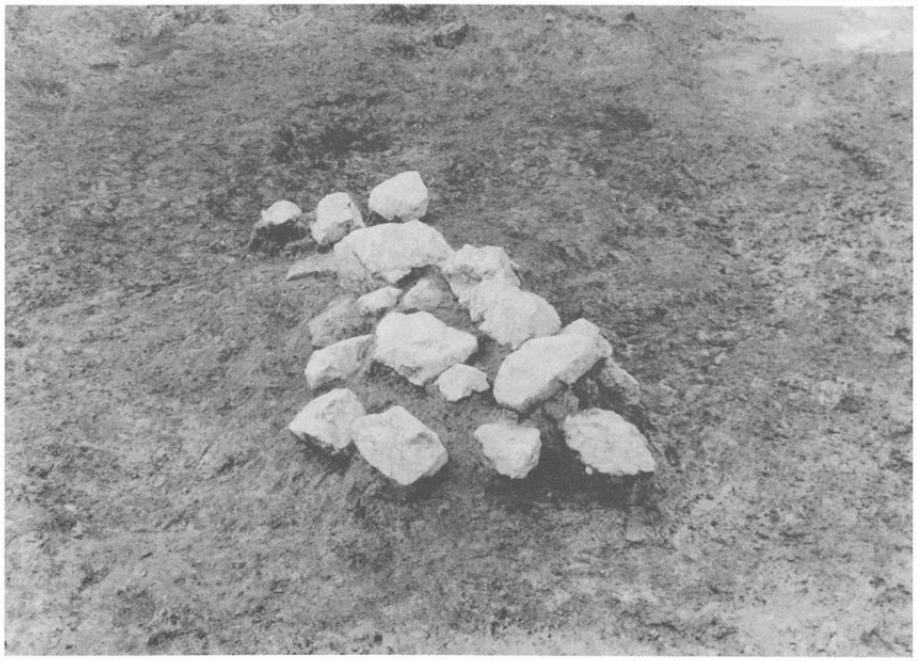
1　Ｔ５
西面回廊（東から）



2　Ｔ５
西面回廊（北東から）

3　Ｔ６
東面回廊（東から）

1　中門全景（西から）



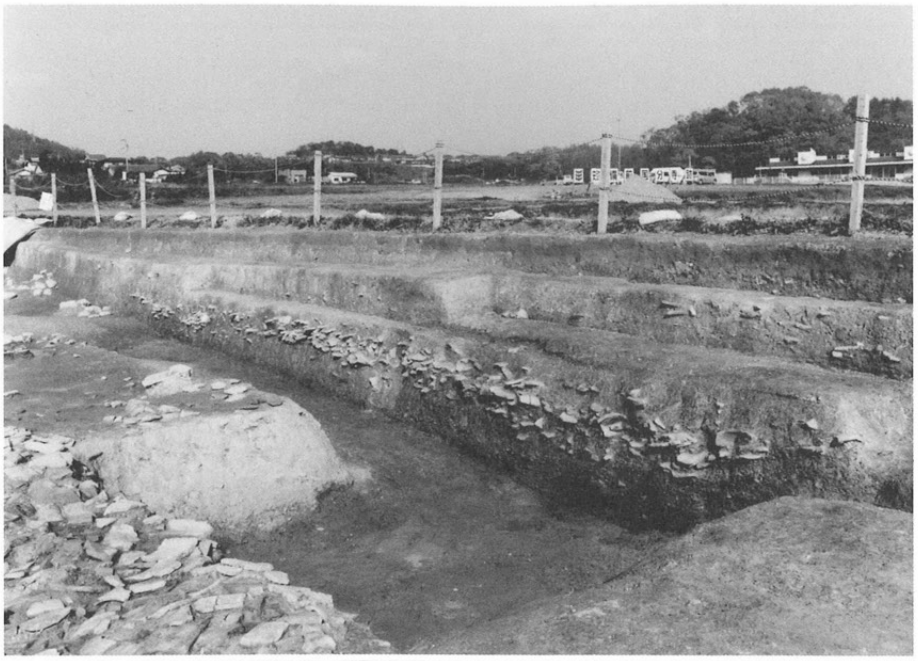
2　中門
礎石57（東から）

3　南面回廊
礎石63・64（北から）

1　南門全景（北西から）

2　南門全景（南から）

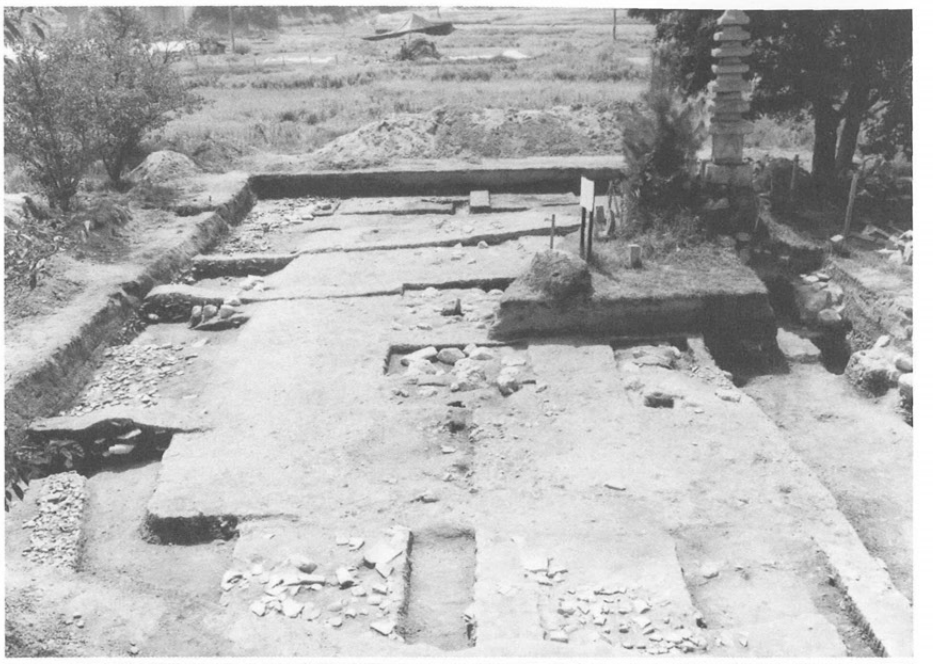
図版22



1　南門
雨落ち溝12断面
（南西から）

2　南門
雨落ち溝12断面
（北西から）

3　南面築地
雨落ち溝14
（南から）

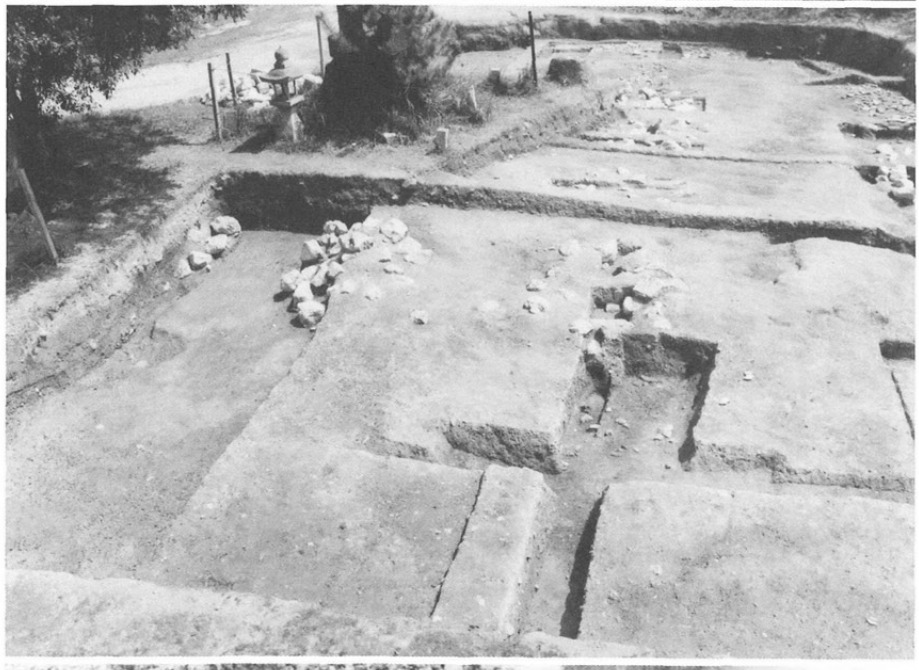


1　塔調査区全景（東から）

2　塔　礎石92（北西から）

3　塔　礎石94（南から）

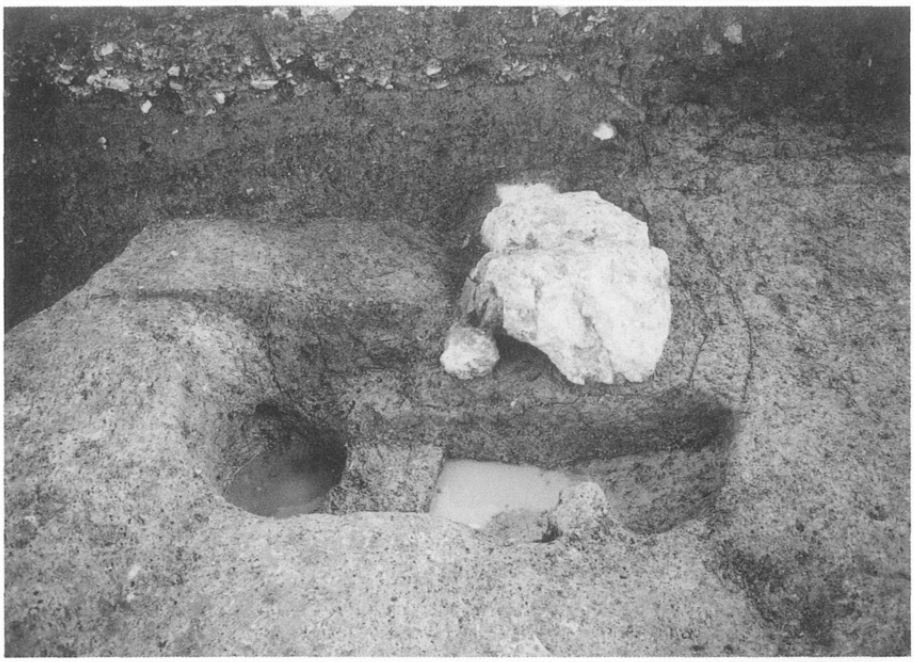
1　塔　礎石93断面
（北から）



2　塔
礎石と溝19
（西から）

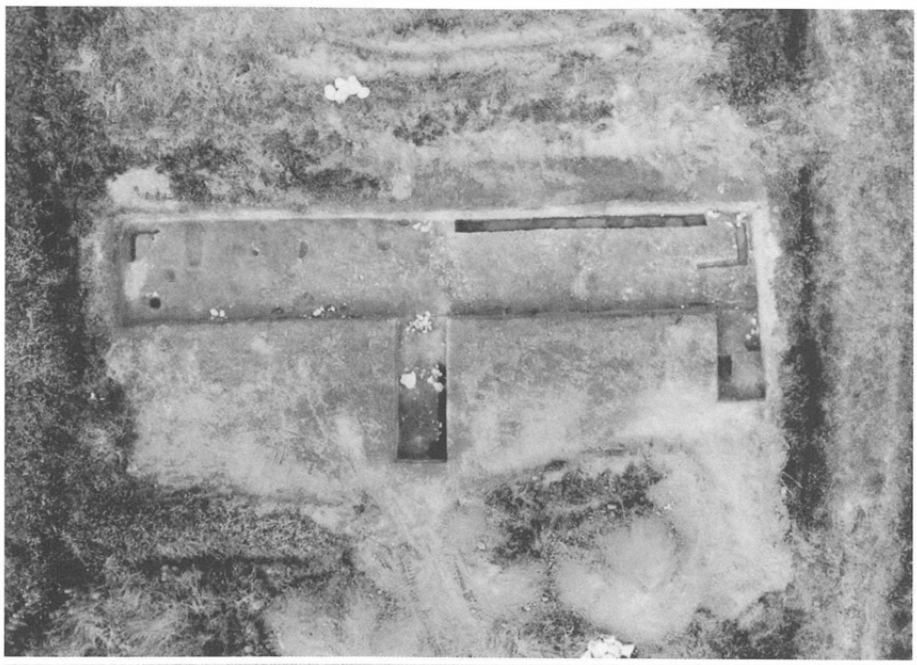
3　塔　溝19断面
（南東から）

1　Ｔ７
僧房（西から）



2　Ｔ７
僧房　礎石78（北から）

3　Ｔ７
僧房　礎石73・79
（北から）



1　Ｔ８
僧房（上が北）

2　Ｔ８
僧房　雨落ち溝16
（南東から）

3　Ｔ８
僧房　Ｐ－17・礎石84
（北から）

1　Ｔ８
僧房　礎石85（北から）

2　Ｔ８
僧房　Ｐ－12
銅印出土状況（西から）

3　Ｔ15・16
南面築地（北東から）

図版28

1　T17　全景（東から）

2　T17
雨落ち溝17（南東から）

3　T17
雨落ち溝17
炉壁出土状況（西から）

1　T18全景（東から）

2　T19B全景
（南西から）

3　T19B
雨落ち溝17断面
（南東から）

1　T11　全景（北東から）

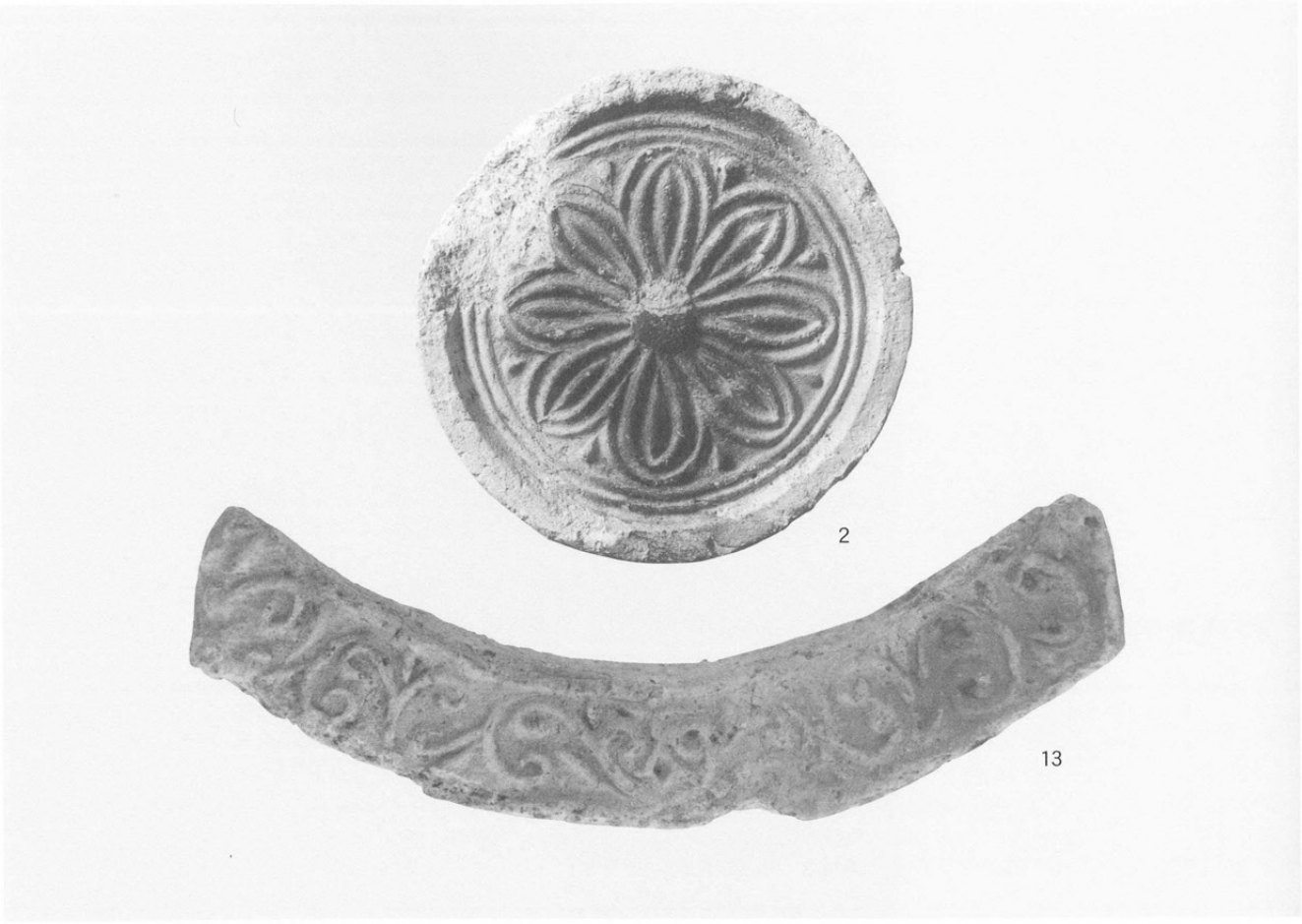
2　T11
北面築地（北から）

3　T11
カマド1（東から）

1　T13　全景（南西から）

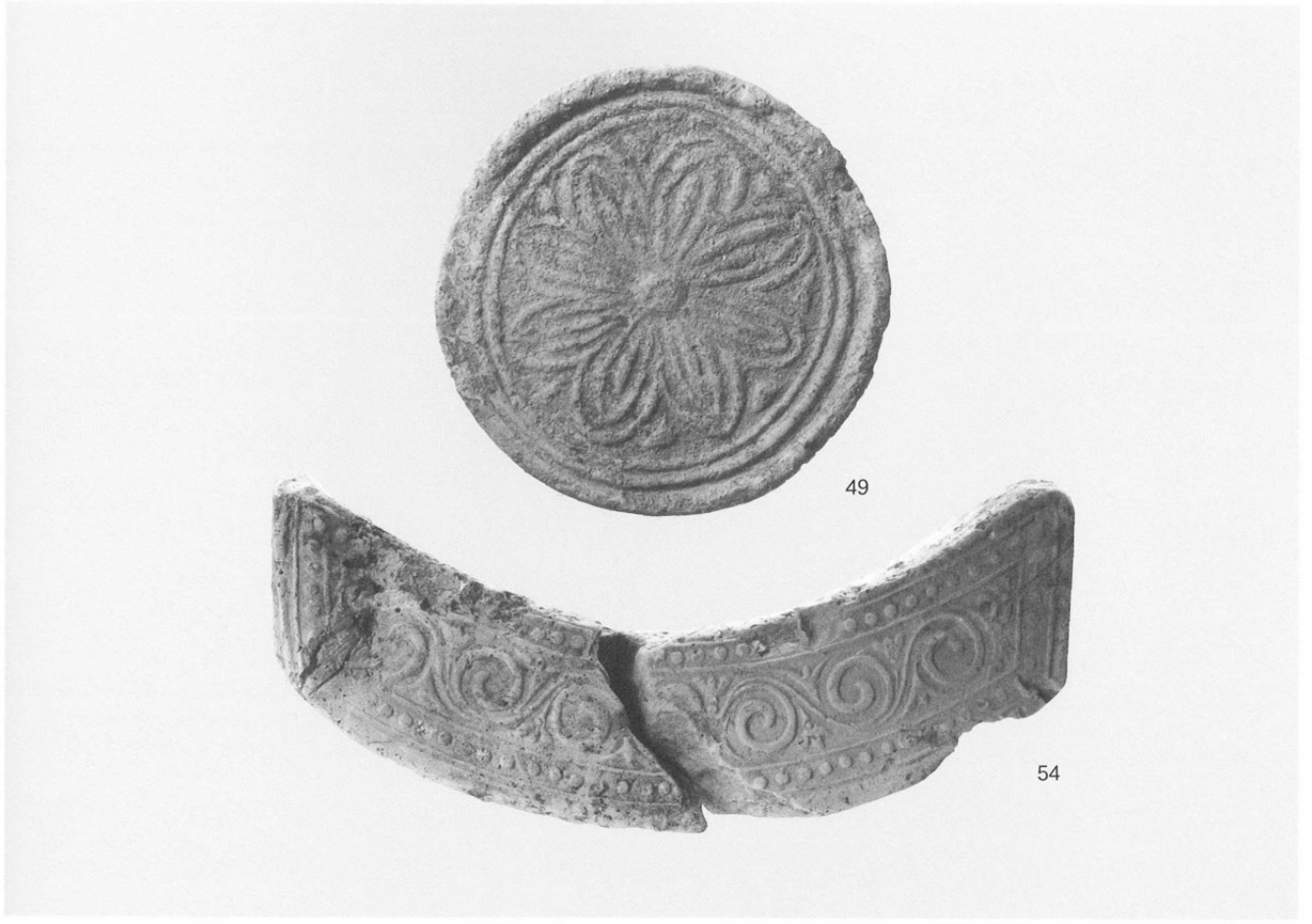
2　T13
雨落ち溝19・石列3
（南東から）

3　T9全景（南東から）



1　軒丸瓦１式　軒平瓦１Ｂ式

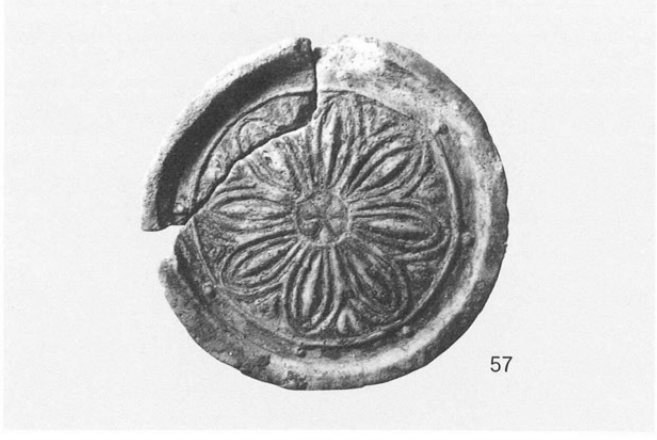
2　軒丸瓦１式　軒平瓦２Ｂ式



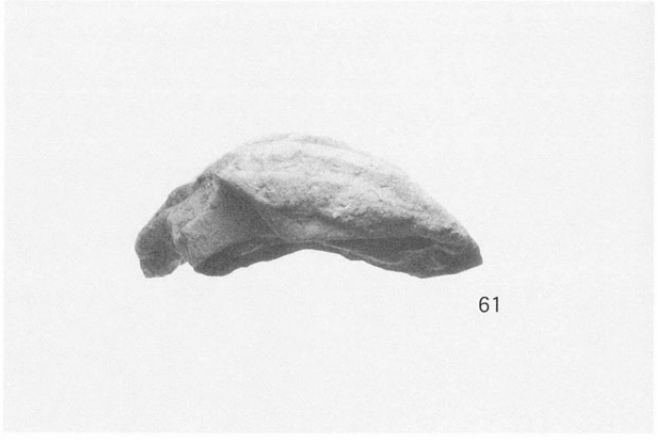
1　軒丸瓦２式　軒平瓦３式

2　軒丸瓦４式　軒平瓦４式

1　軒丸瓦６式　軒平瓦５式

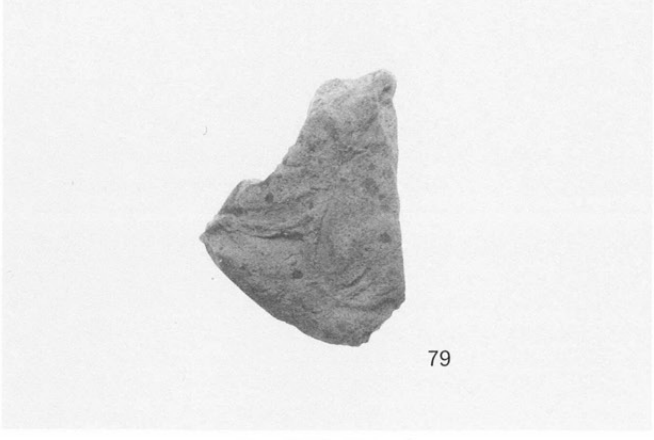


2　軒丸瓦３式



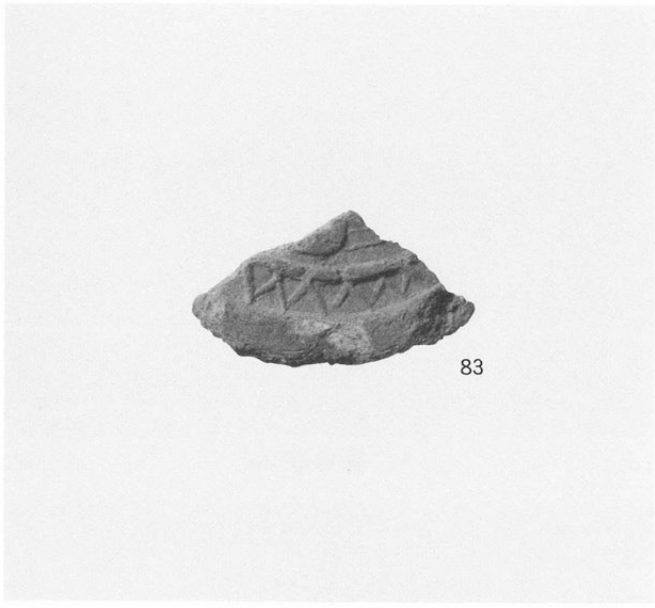
3　軒丸瓦５式

4　軒丸瓦７式

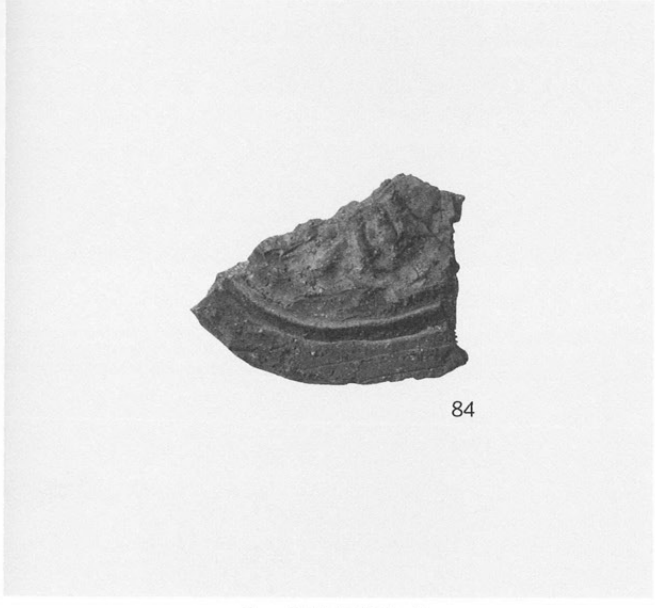


5　軒丸瓦９式

1　軒丸瓦12式

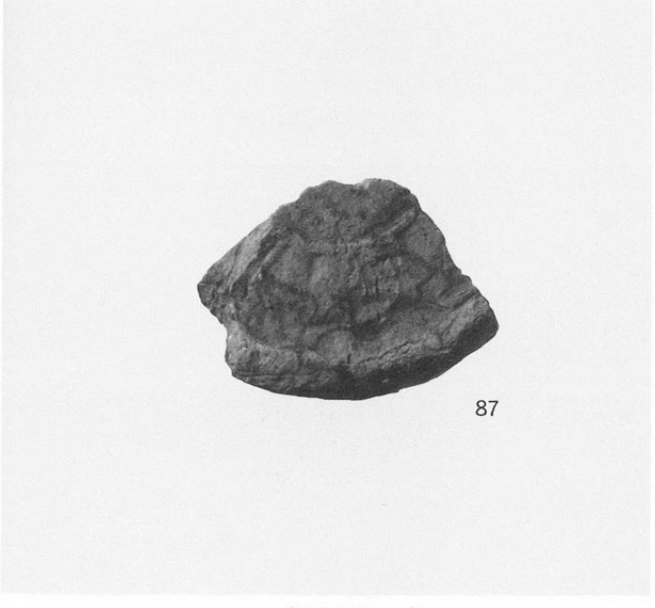


2　軒丸瓦13式



3　軒丸瓦14式

4　軒丸瓦15式

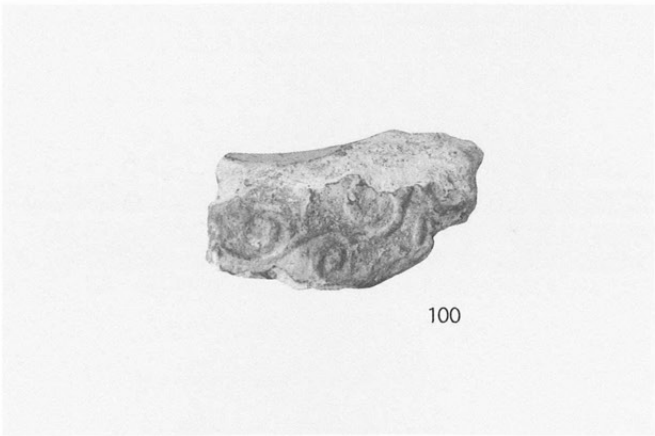


5　軒丸瓦16式

6　軒丸瓦18式

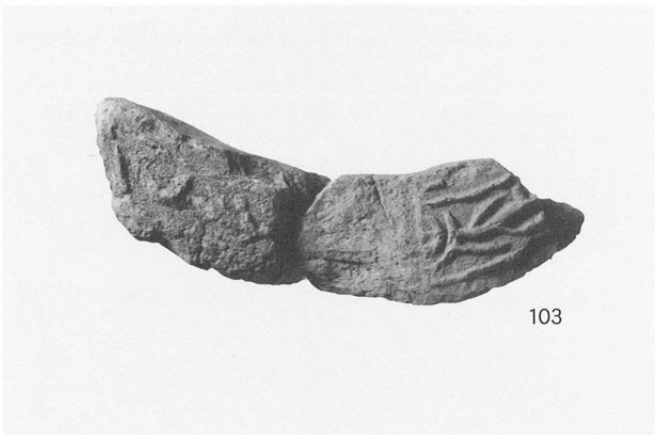
1　軒平瓦７式

2　軒平瓦８式

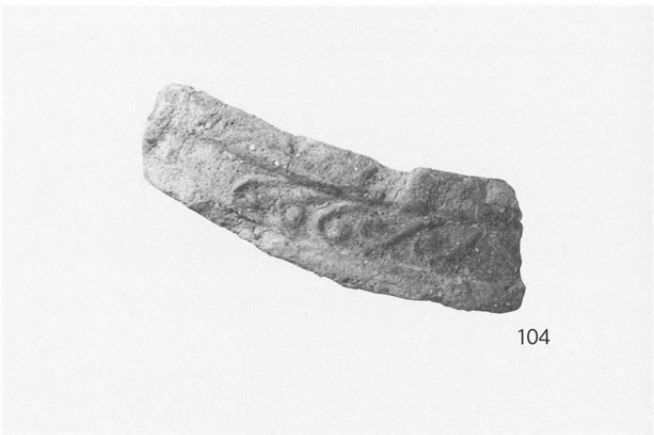


3　軒平瓦12式

4　軒平瓦13式



5　軒平瓦14式



6　軒平瓦15式

7　軒平瓦16式

8　軒平瓦17式

1　軒平瓦18式（a）

110

2　軒平瓦18式（c）

114

3　軒平瓦19式

118

4　軒平瓦20式

120

5　軒平瓦22式

121

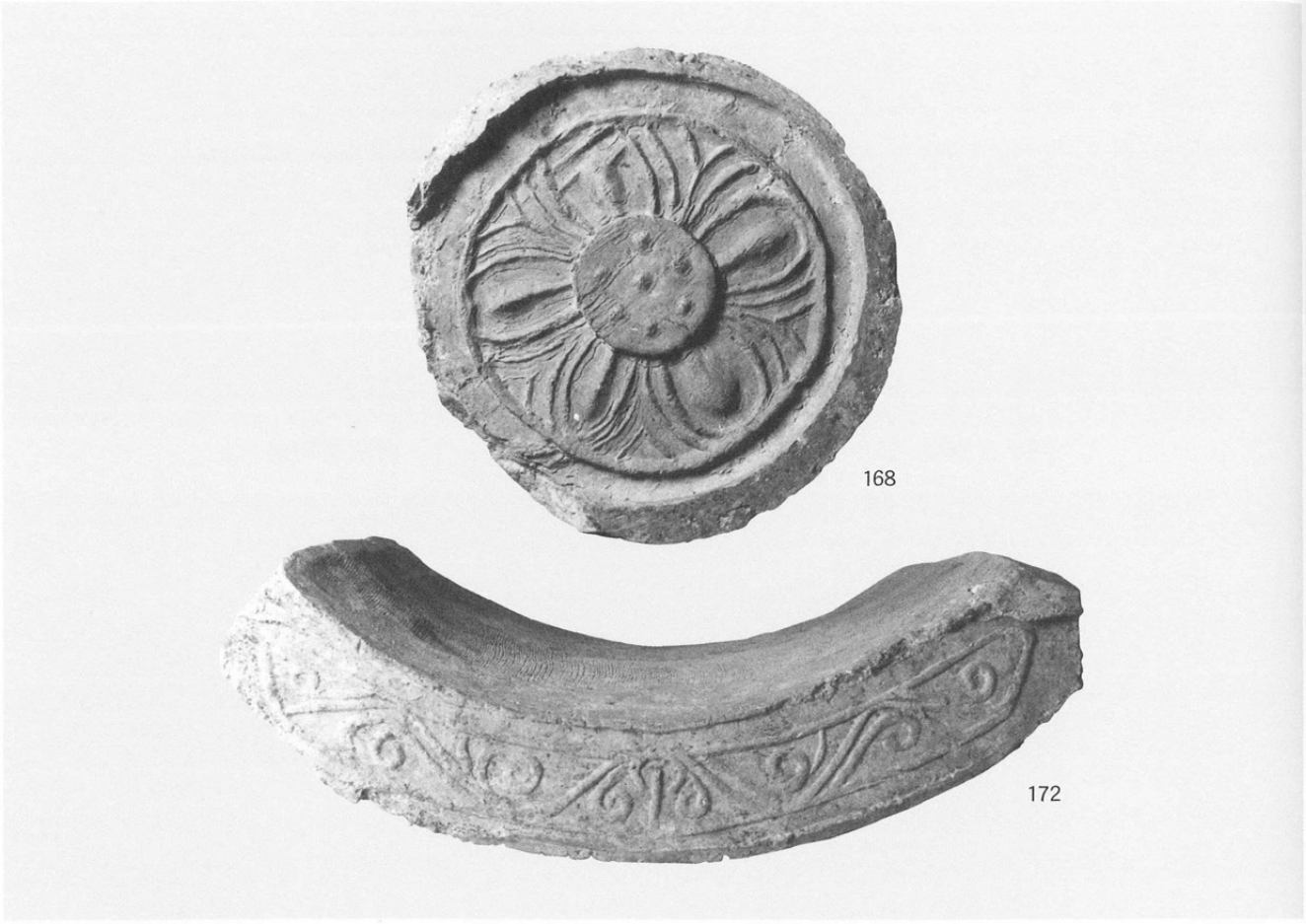
6　軒平瓦23式

122

7　軒平瓦24式

193

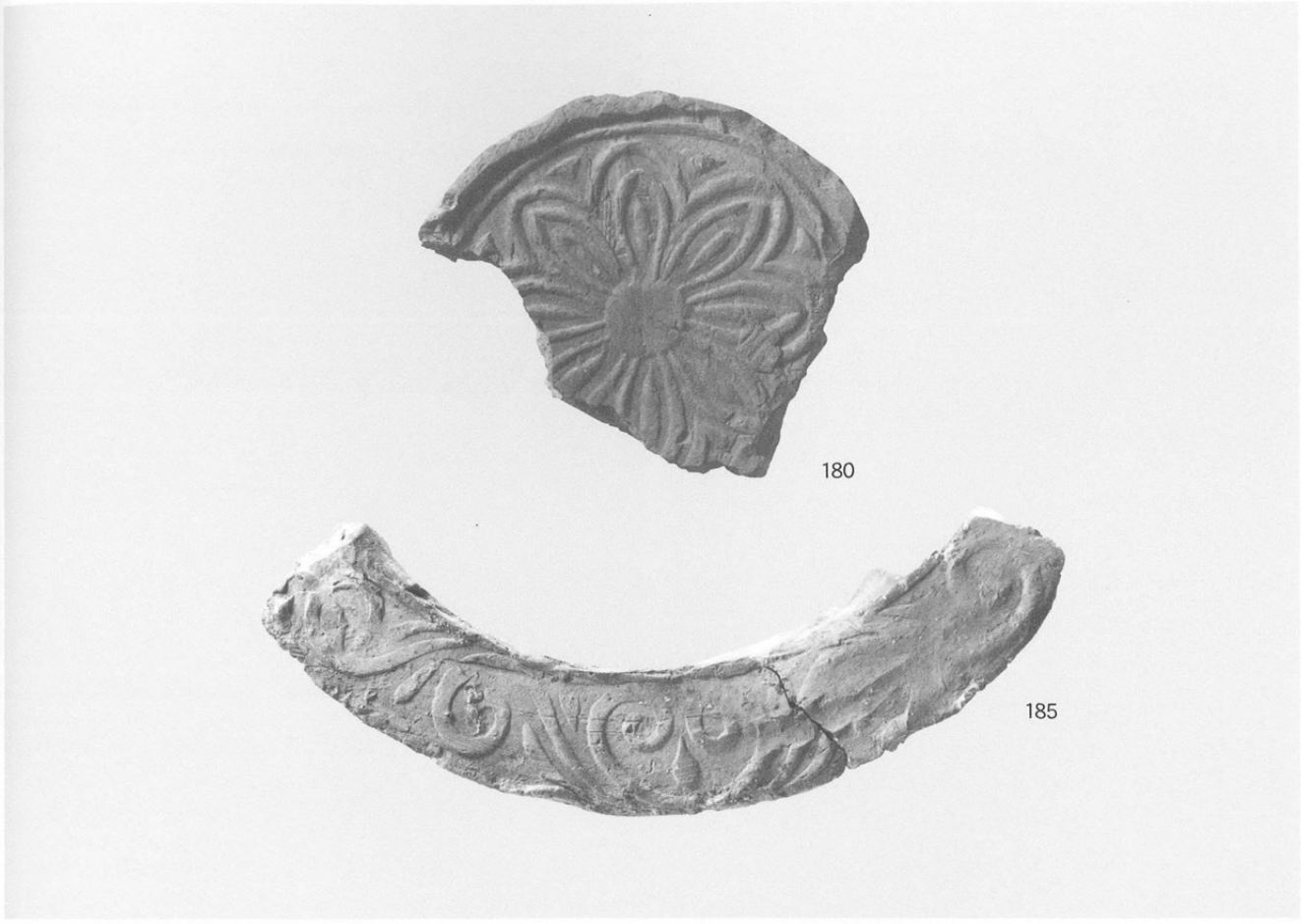
8　軒平瓦27式



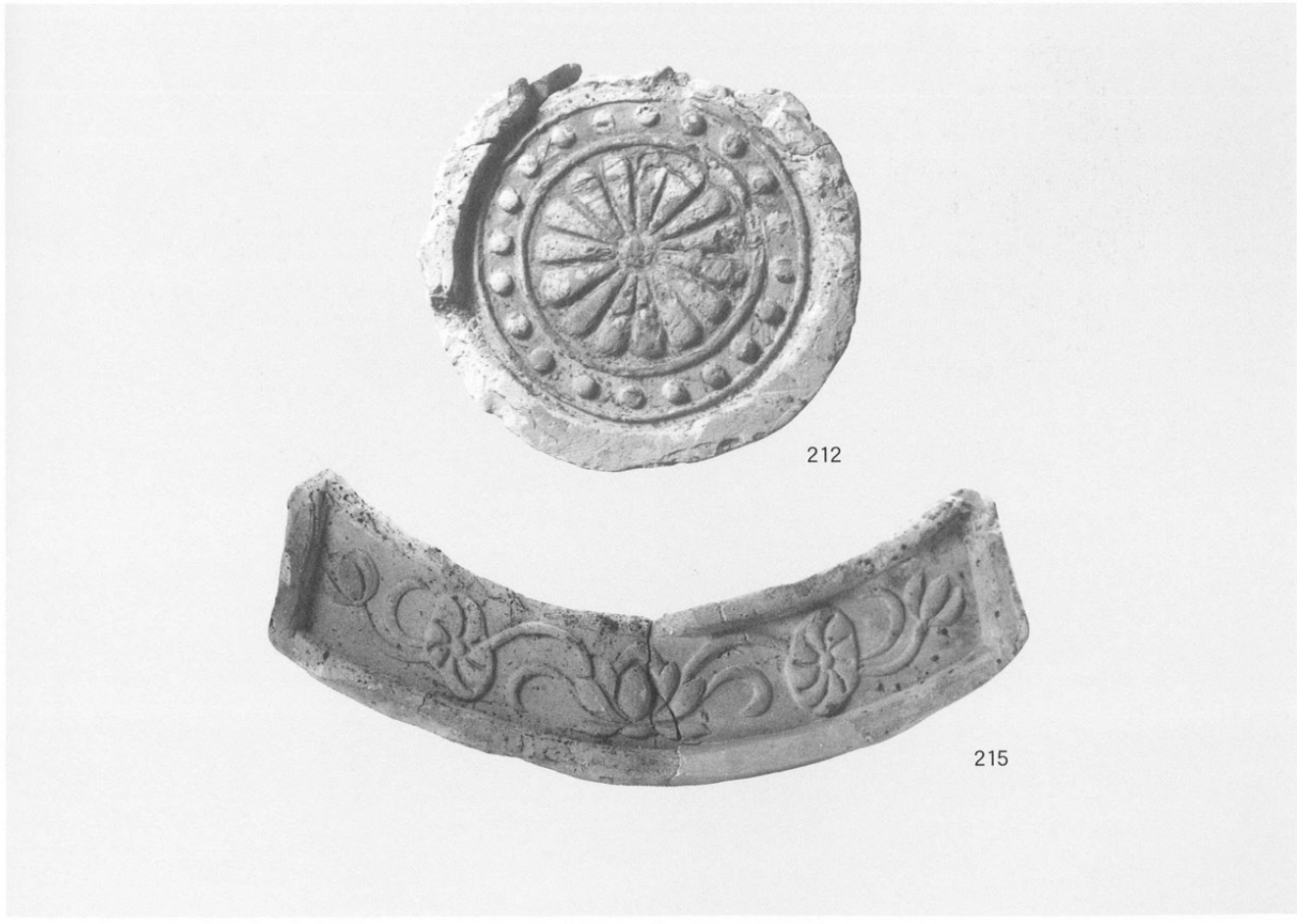
1　軒丸瓦20式　軒平瓦25式

2　軒丸瓦21式（a）

3　軒丸瓦21式（b）



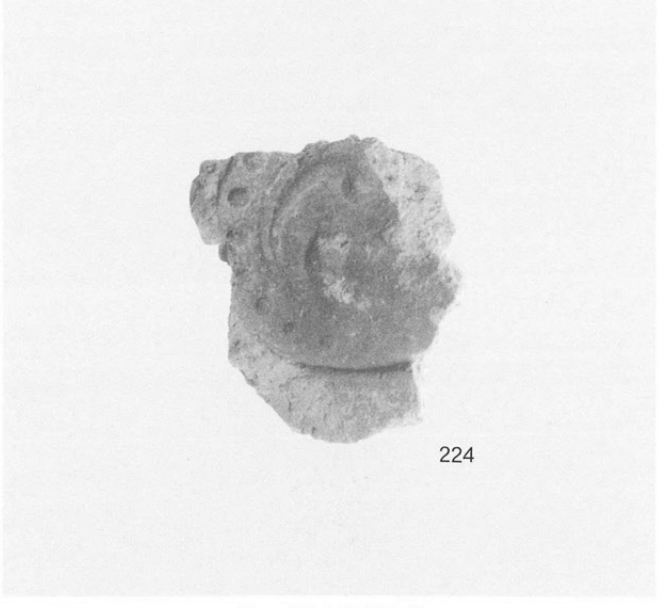
1　軒丸瓦22式　軒平瓦26式



2　軒丸瓦23式　軒平瓦28式

1　軒丸瓦24式

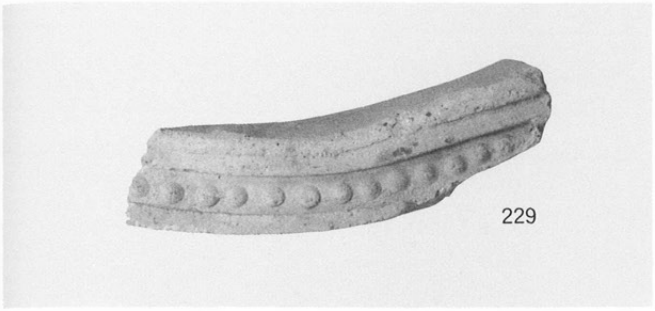
2　軒丸瓦25式



3　軒丸瓦26式

4　軒丸瓦27式

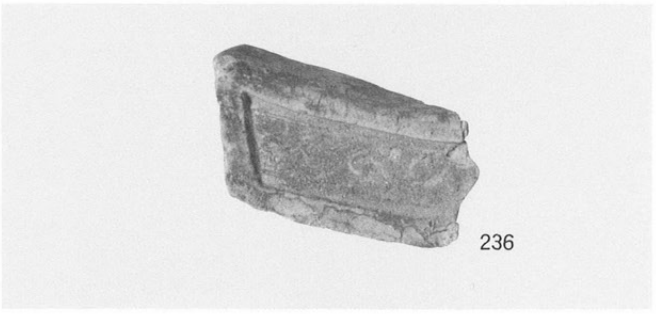
5　軒丸瓦28式



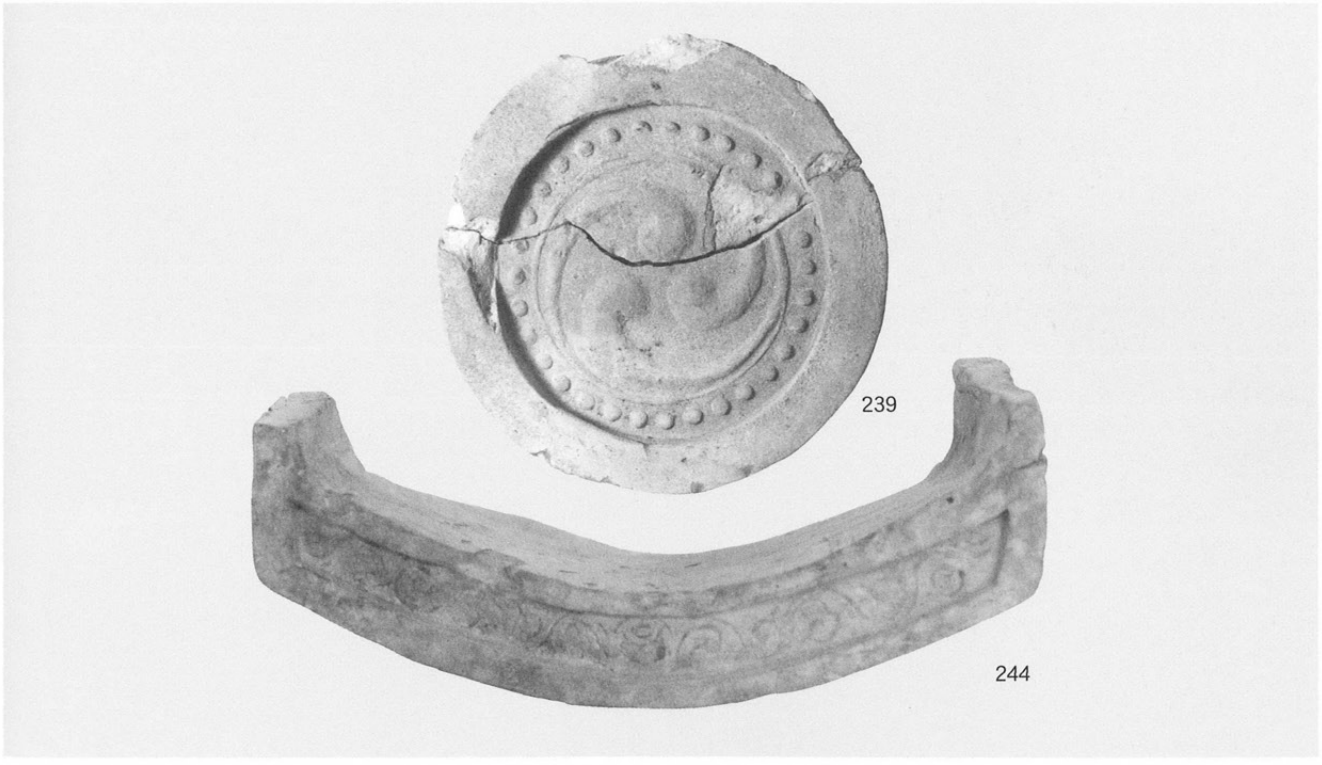
1　軒平瓦29式

2　軒平瓦30式

3　軒平瓦31式

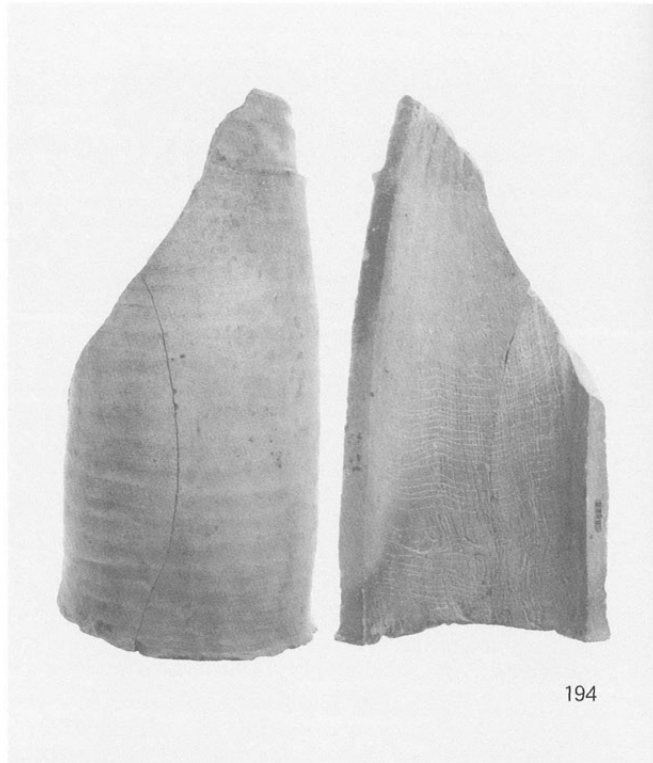


4　軒平瓦32式

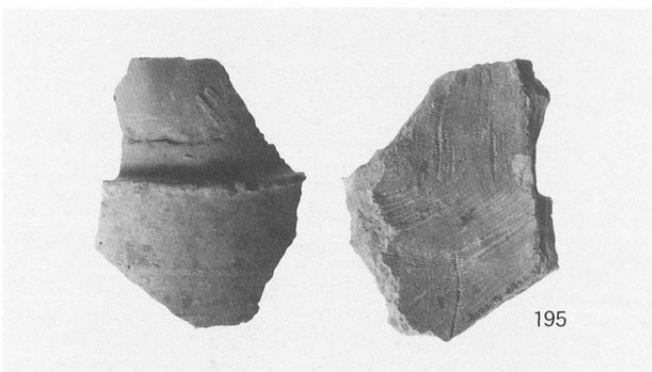


5　軒丸瓦29式　軒平瓦33式

6　軒平瓦34式



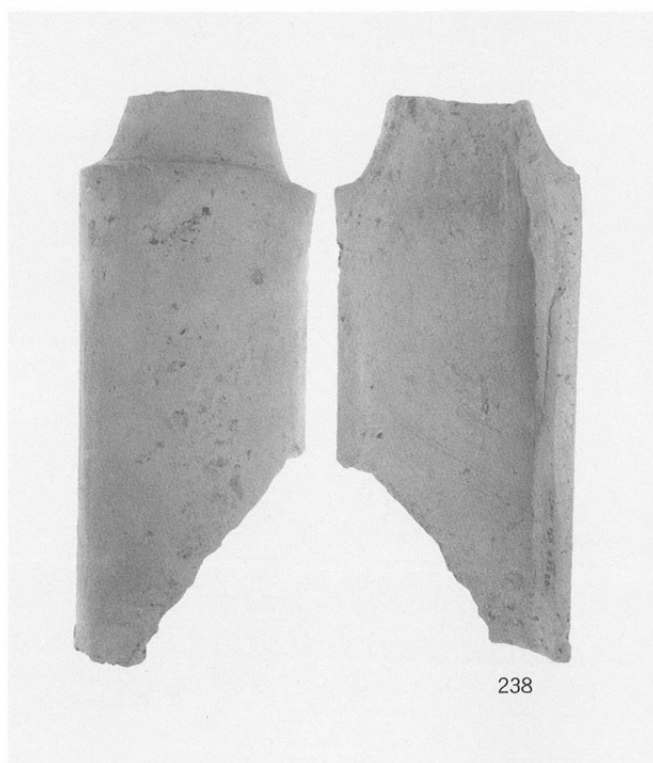
194



195

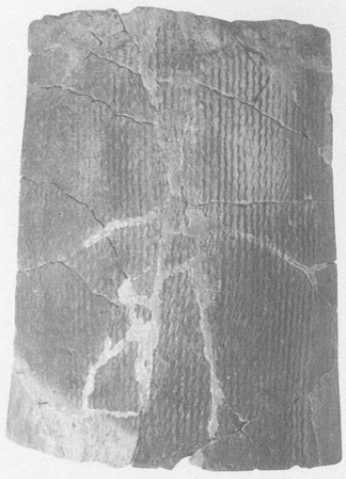
237

197



238

丸瓦

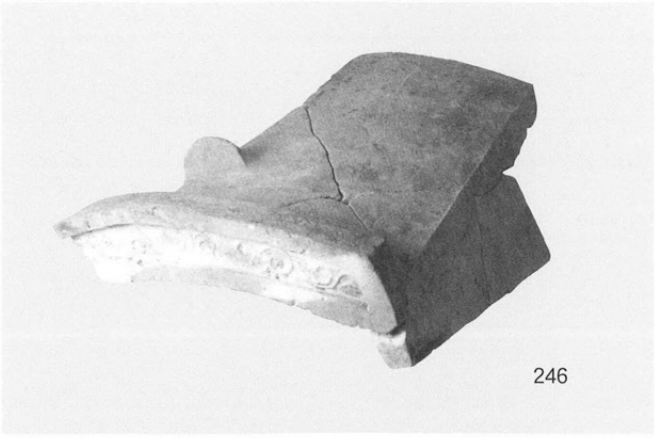


293

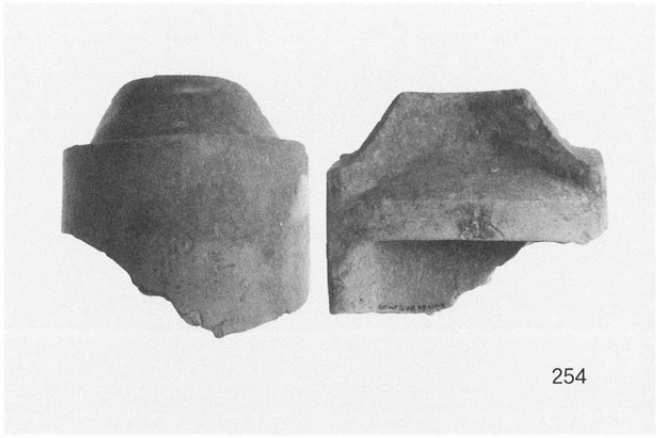
142

174

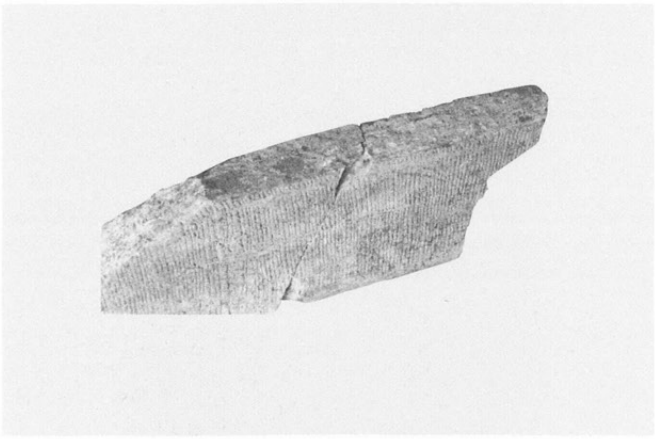
平瓦



1　軒平瓦33式

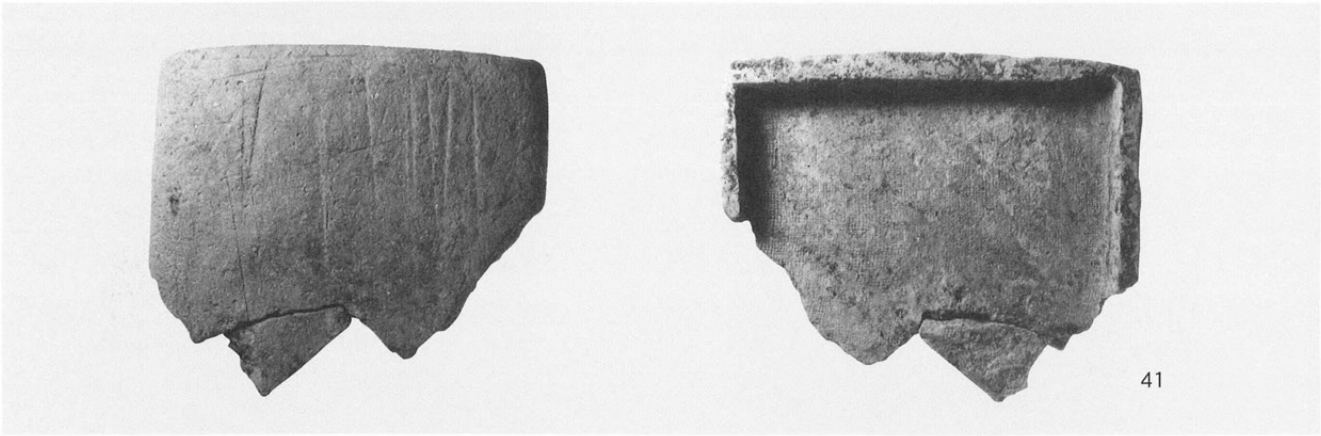


2　丸瓦

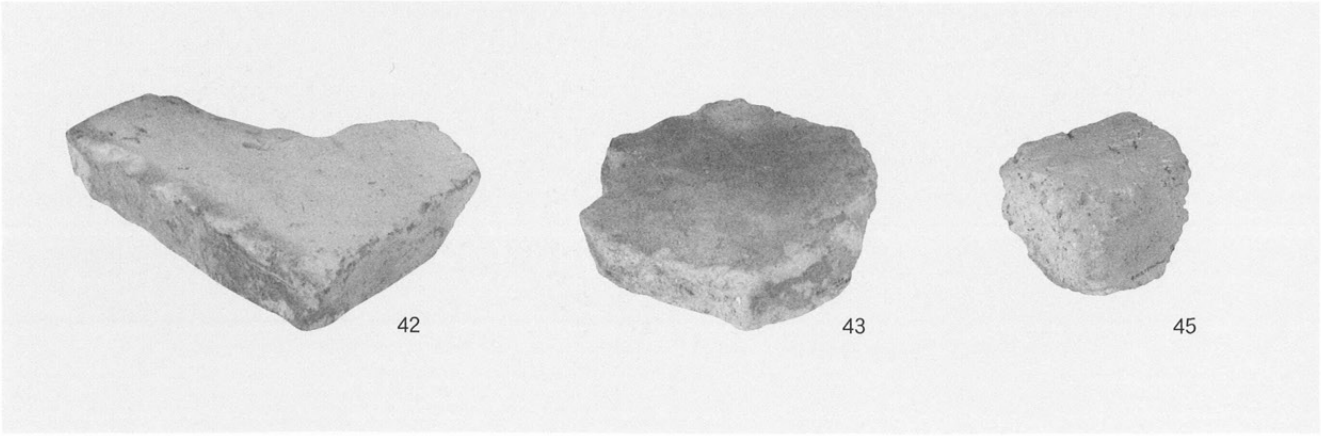


3　平瓦の胎土（174と同種）

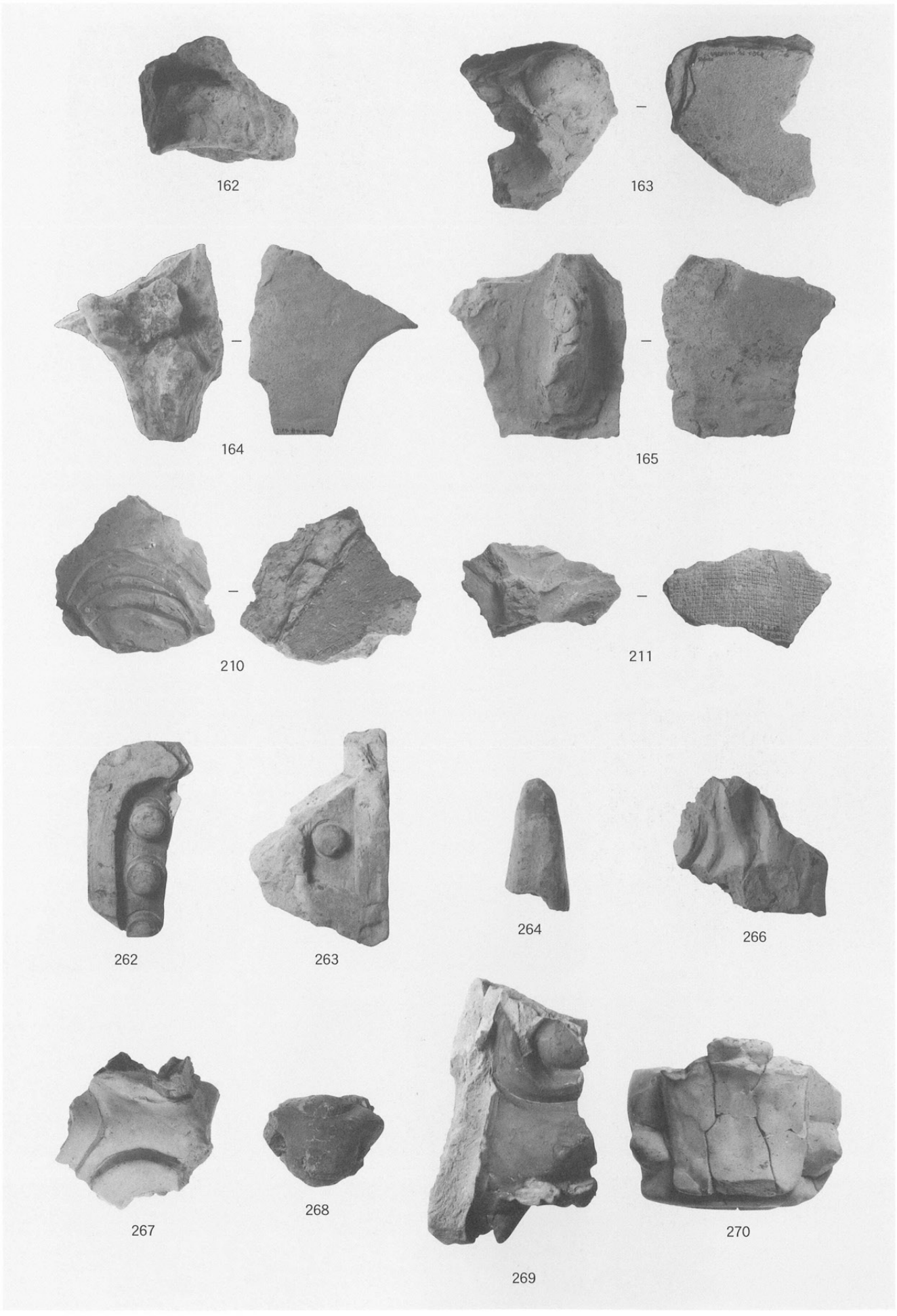
4　軒平瓦33式鰭状部基部破面



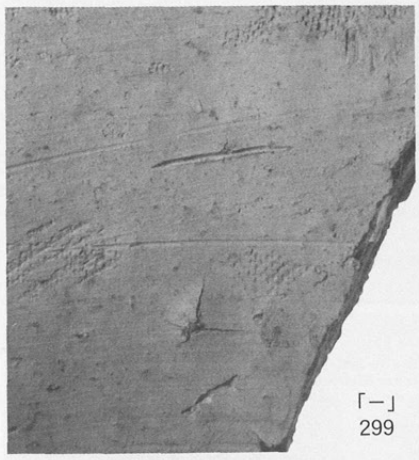
5　隅木蓋瓦



6　塼



鬼瓦


「一」
299

「二」
305

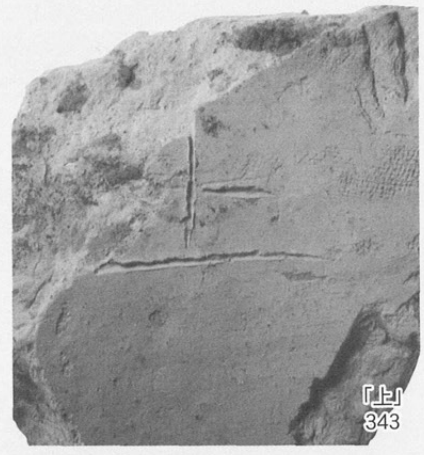
「三」
321

「四」
325

「八」

「十」
292

「十」
336


「上」
343

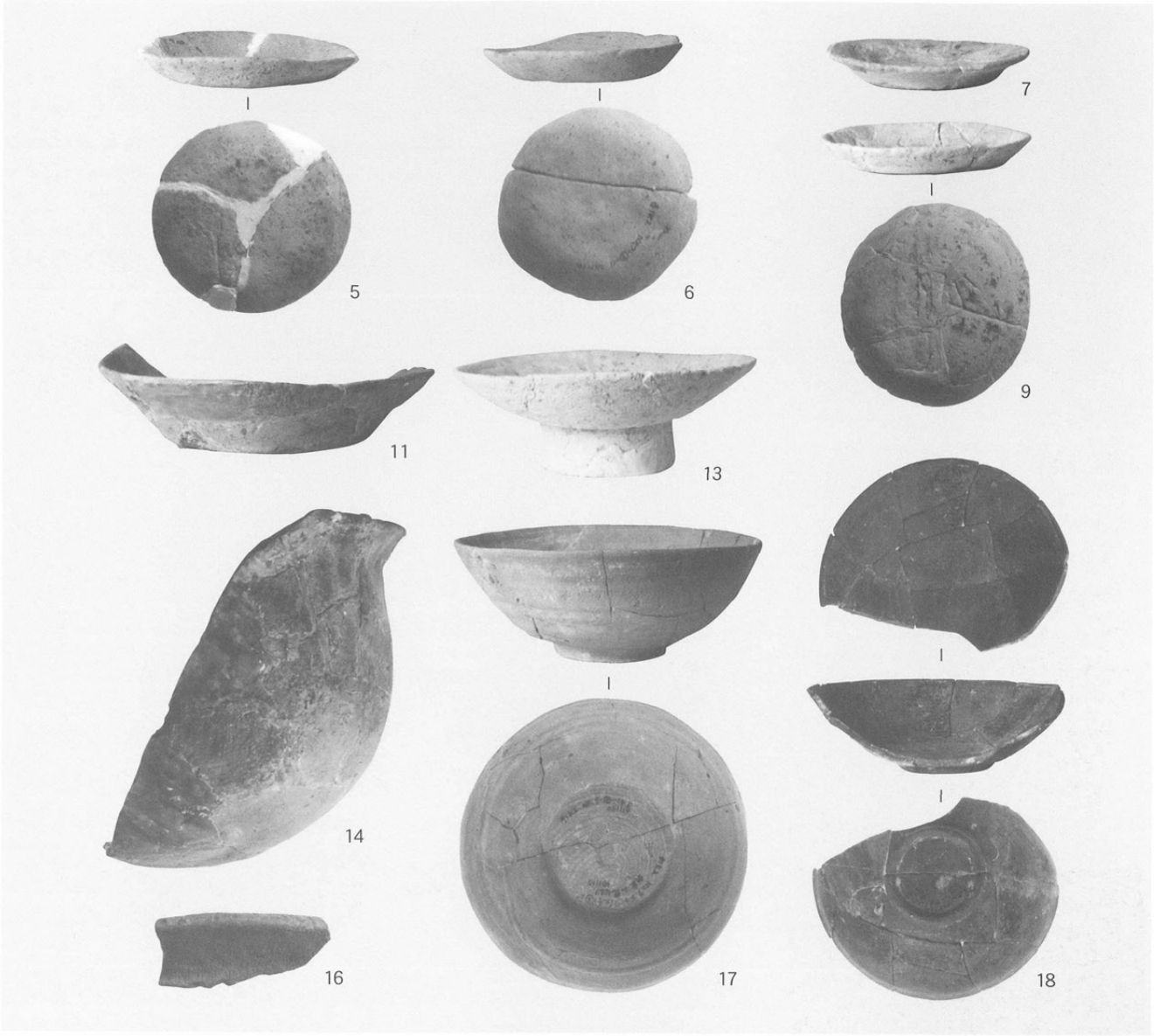
「上」

「｜」
294

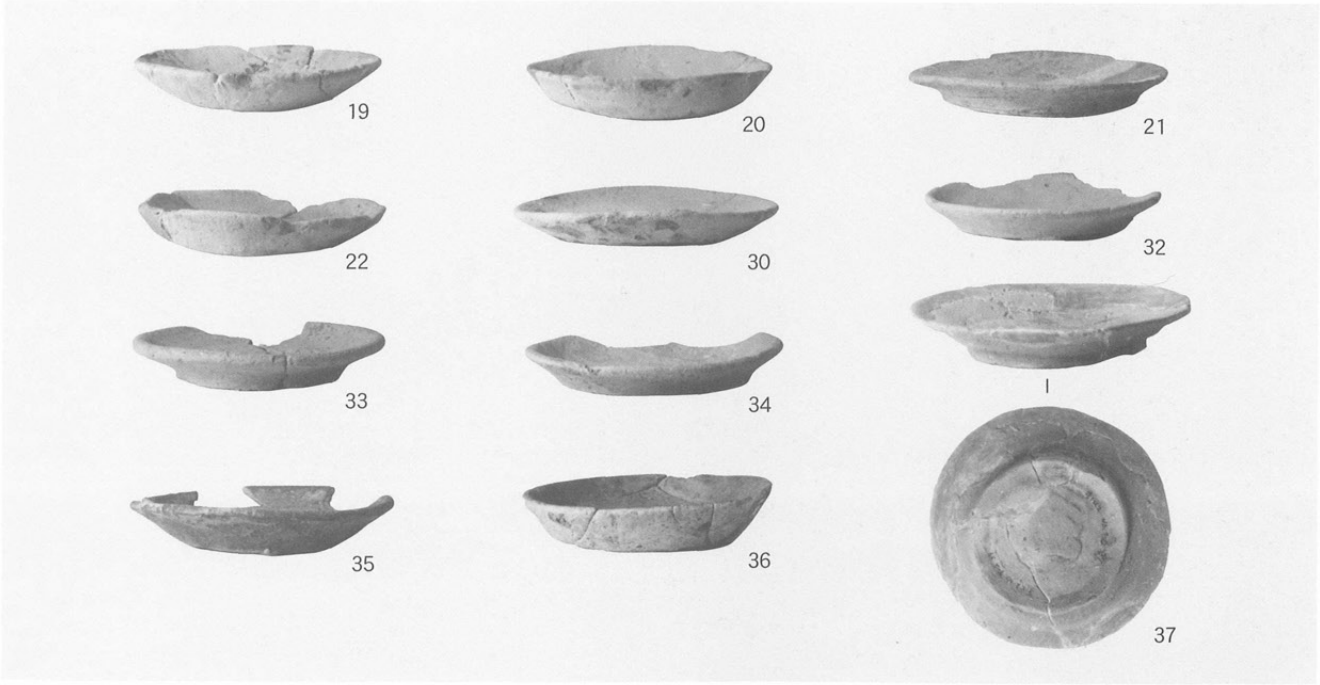
「O」
357

「r」
360

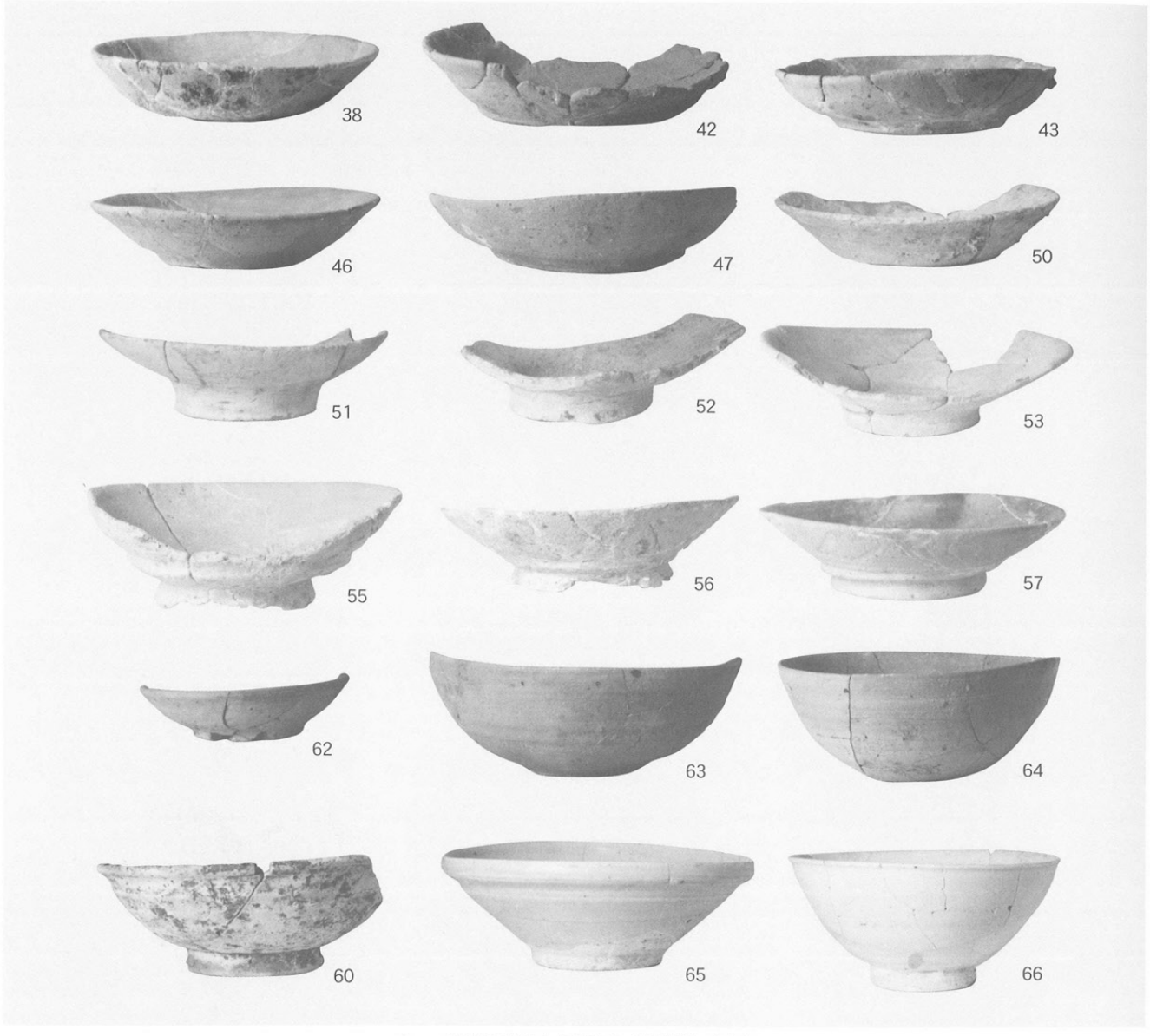
文字瓦



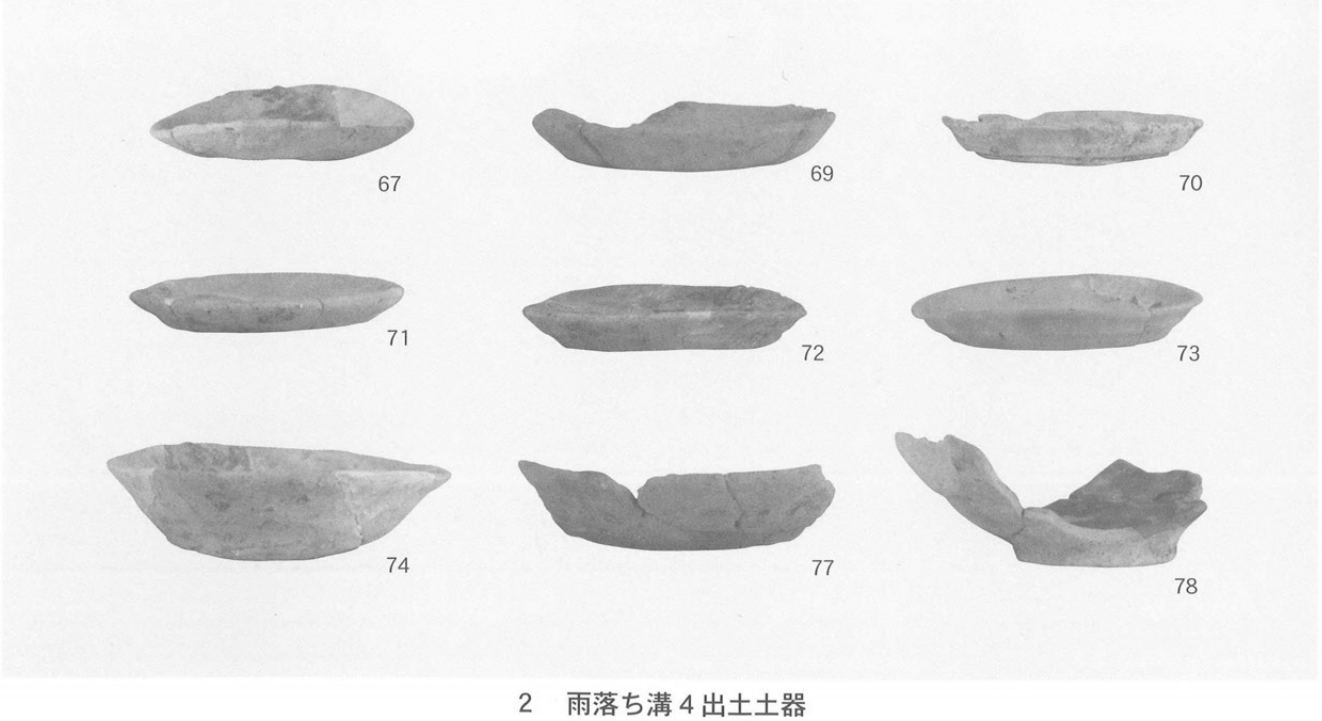
1　北面回廊下層出土土器



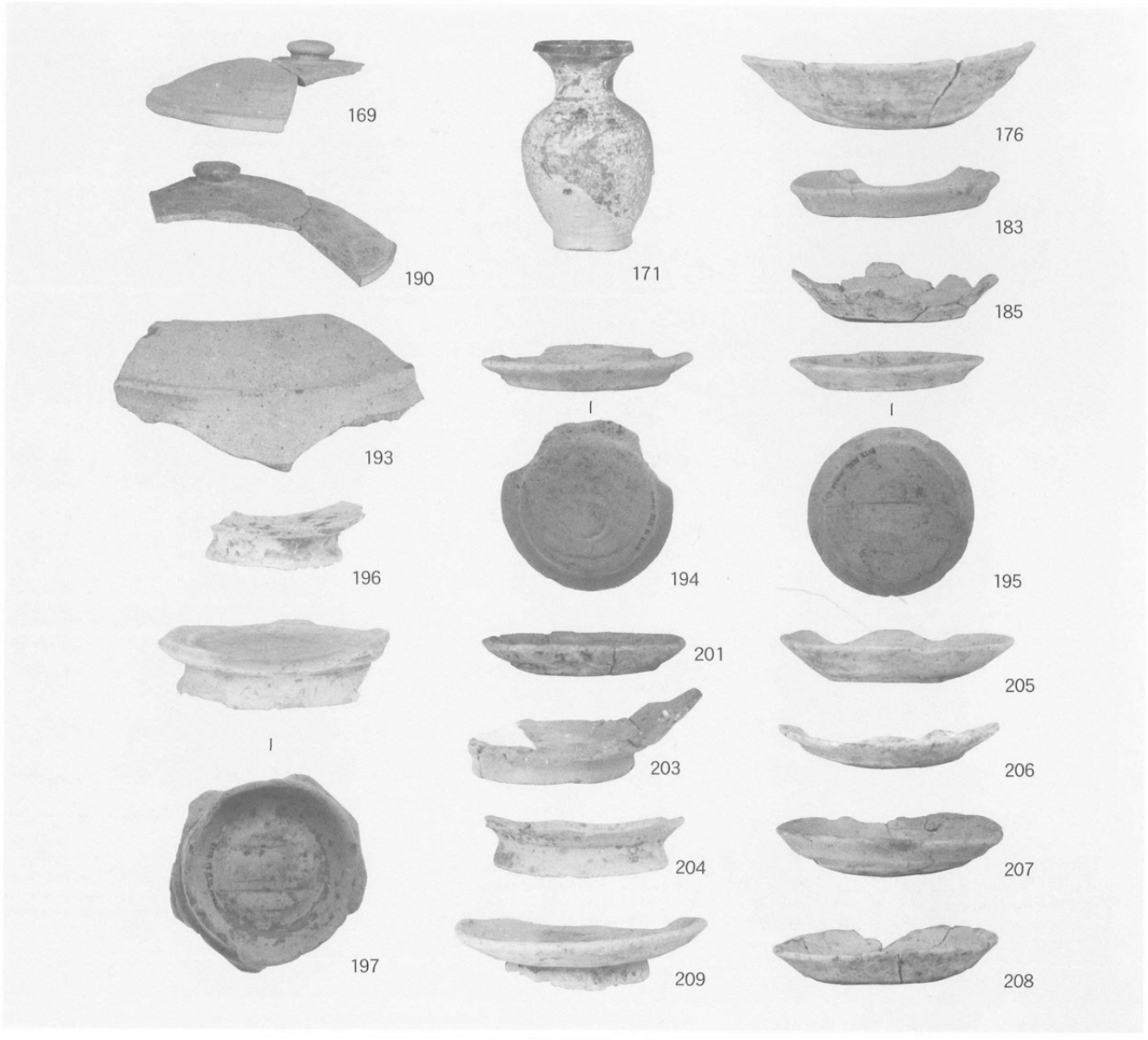
2　北面回廊上層出土土器等（1）



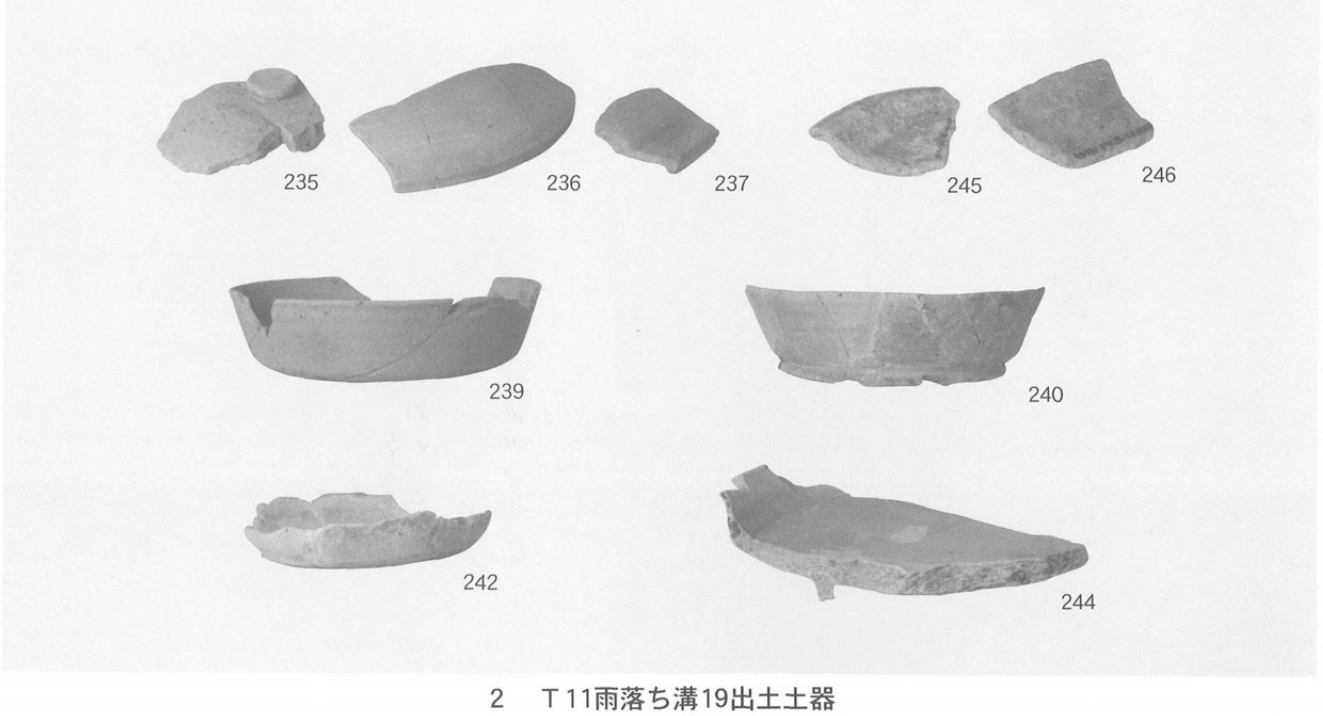
1　北面回廊上層出土土器等（2）



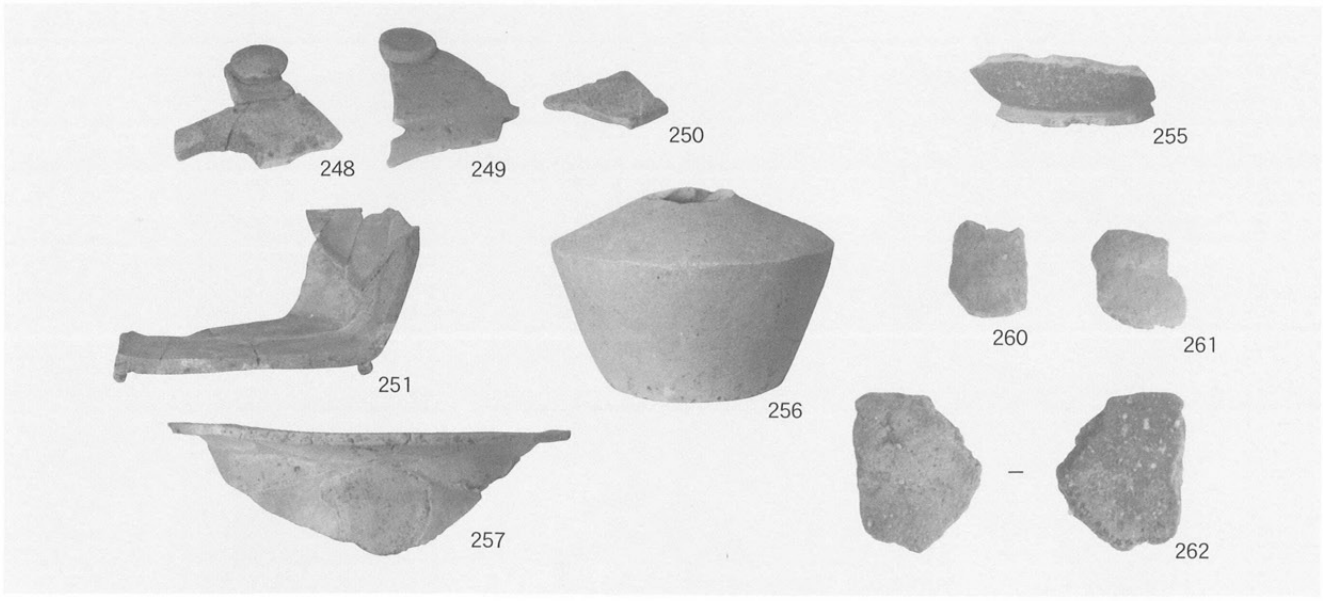
2　雨落ち溝４出土土器



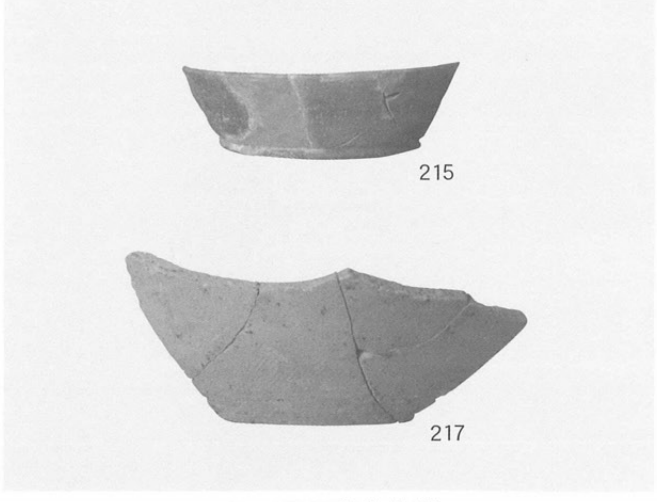
1　僧房出土土器



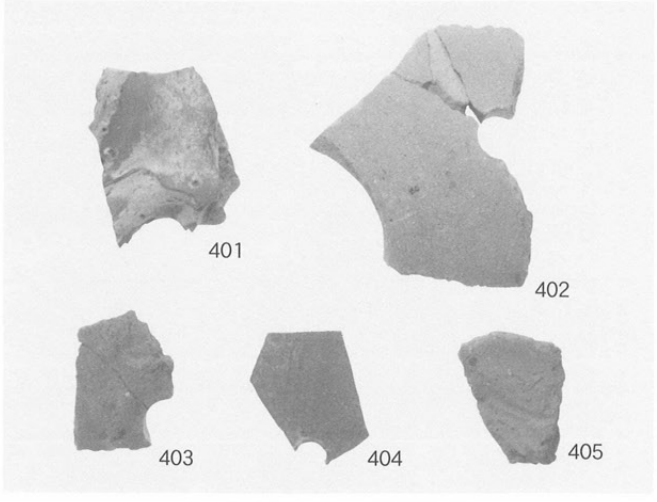
2　Ｔ11雨落ち溝19出土土器



1　カマド１周辺出土土器

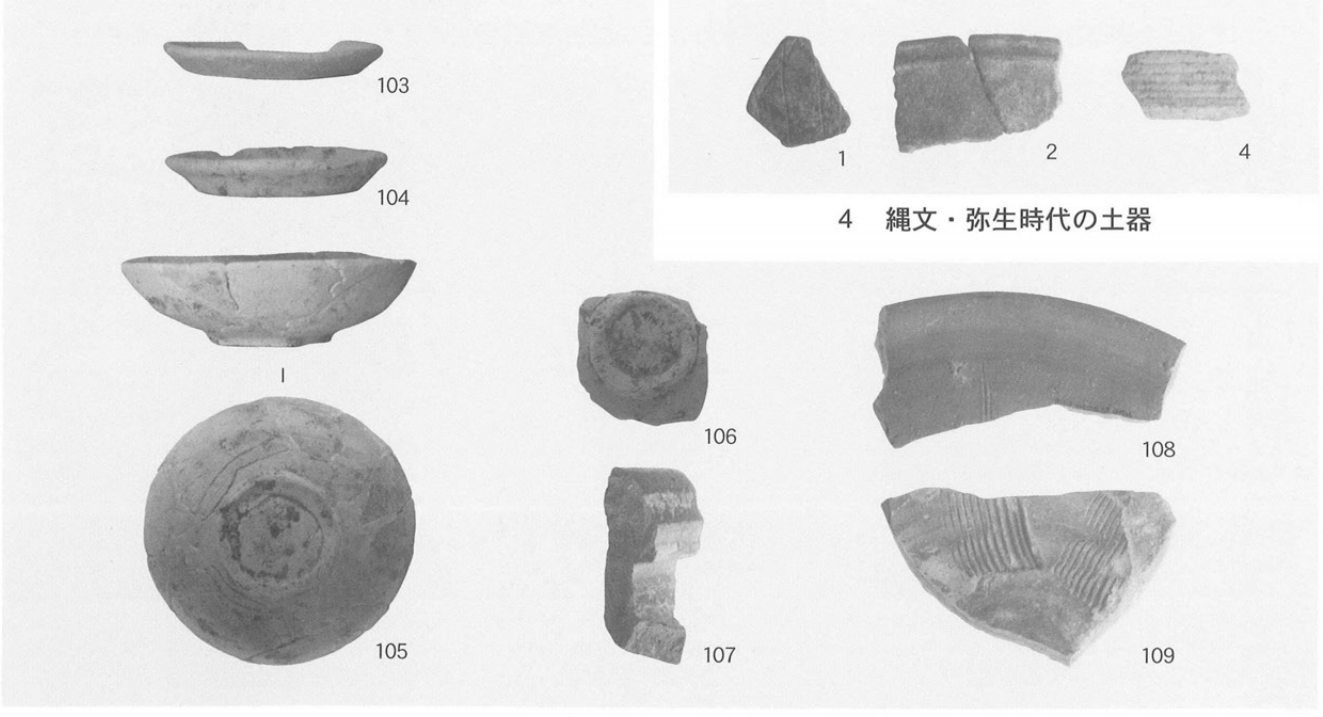


2　Ｔ17出土土器

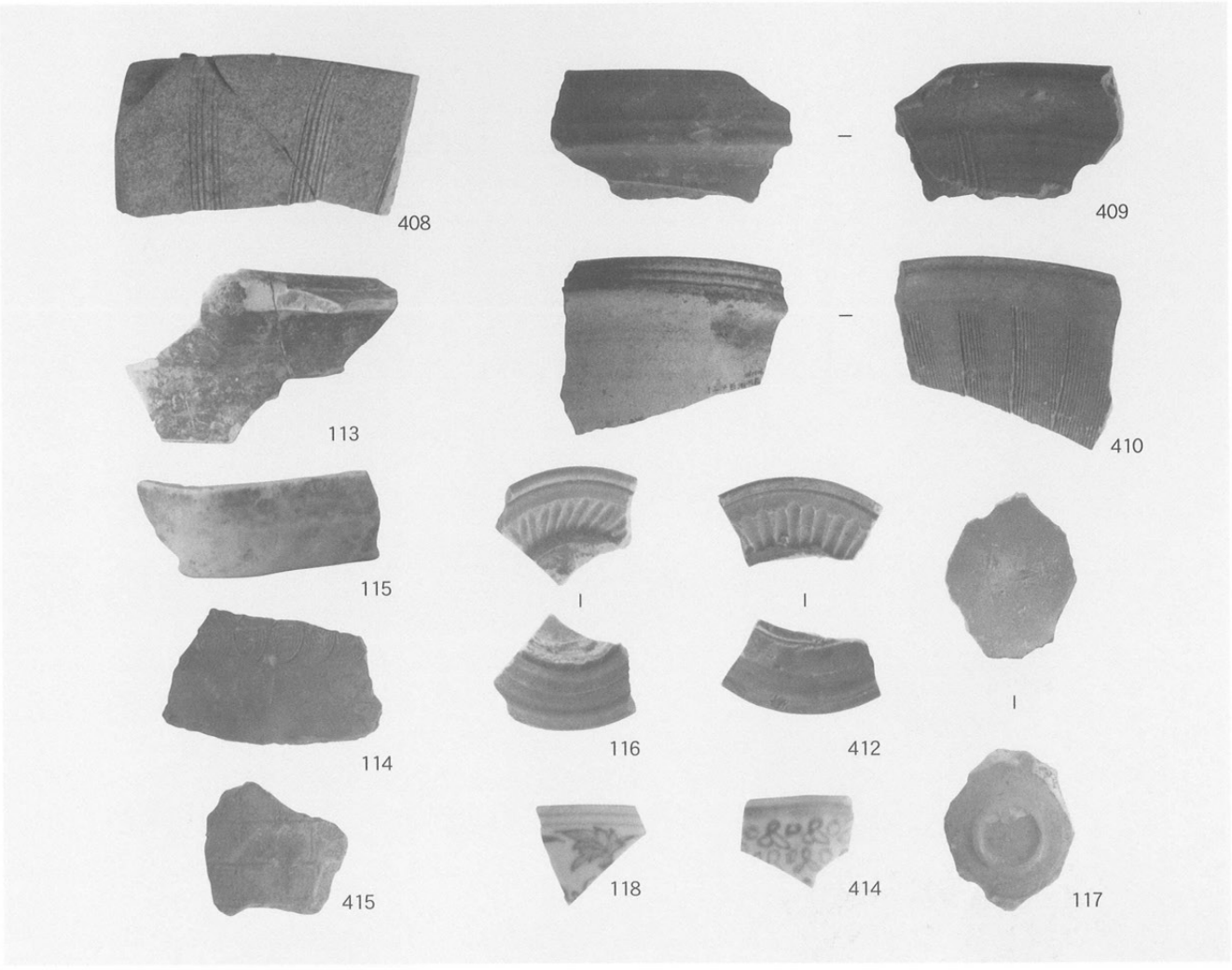


3　円孔をもつ須恵器等

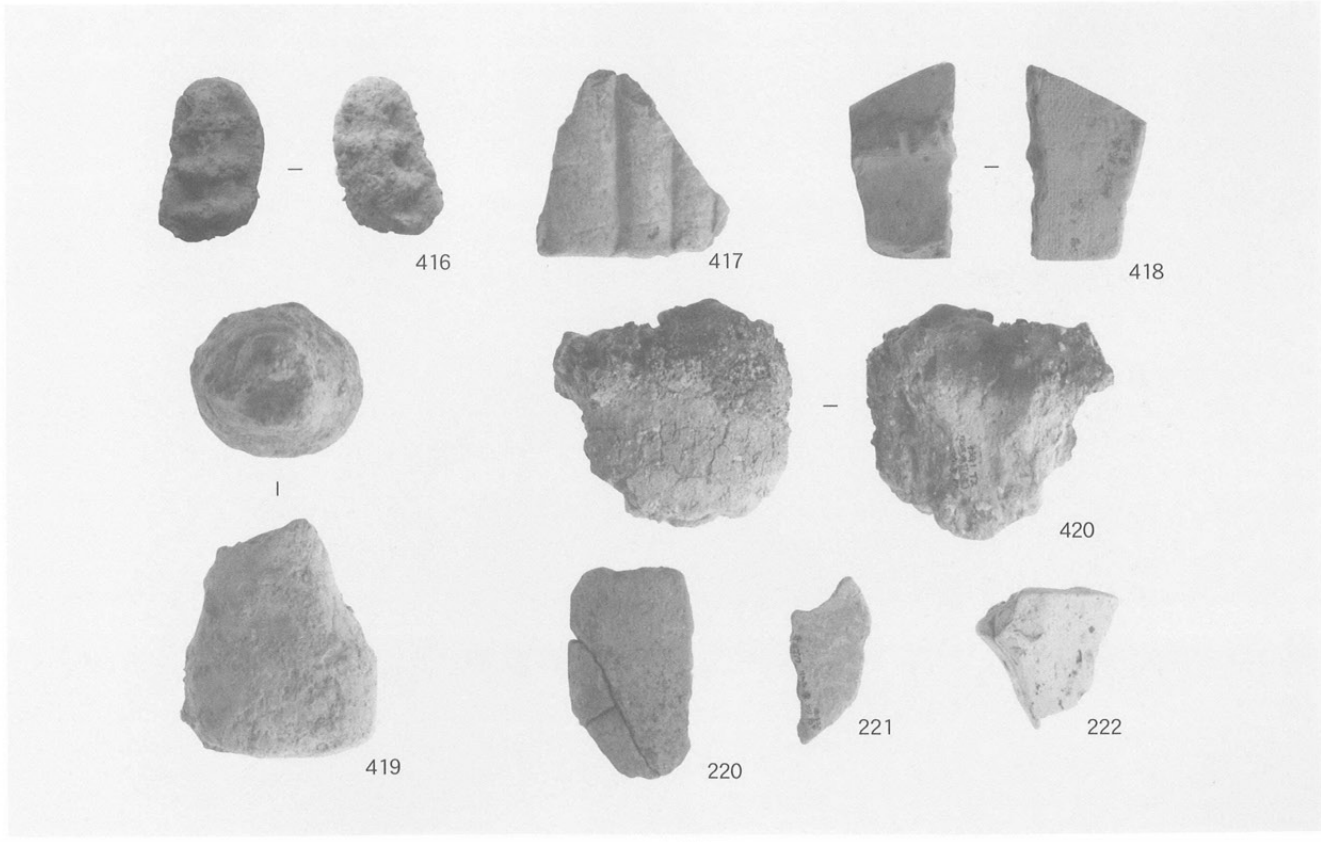
4　縄文・弥生時代の土器



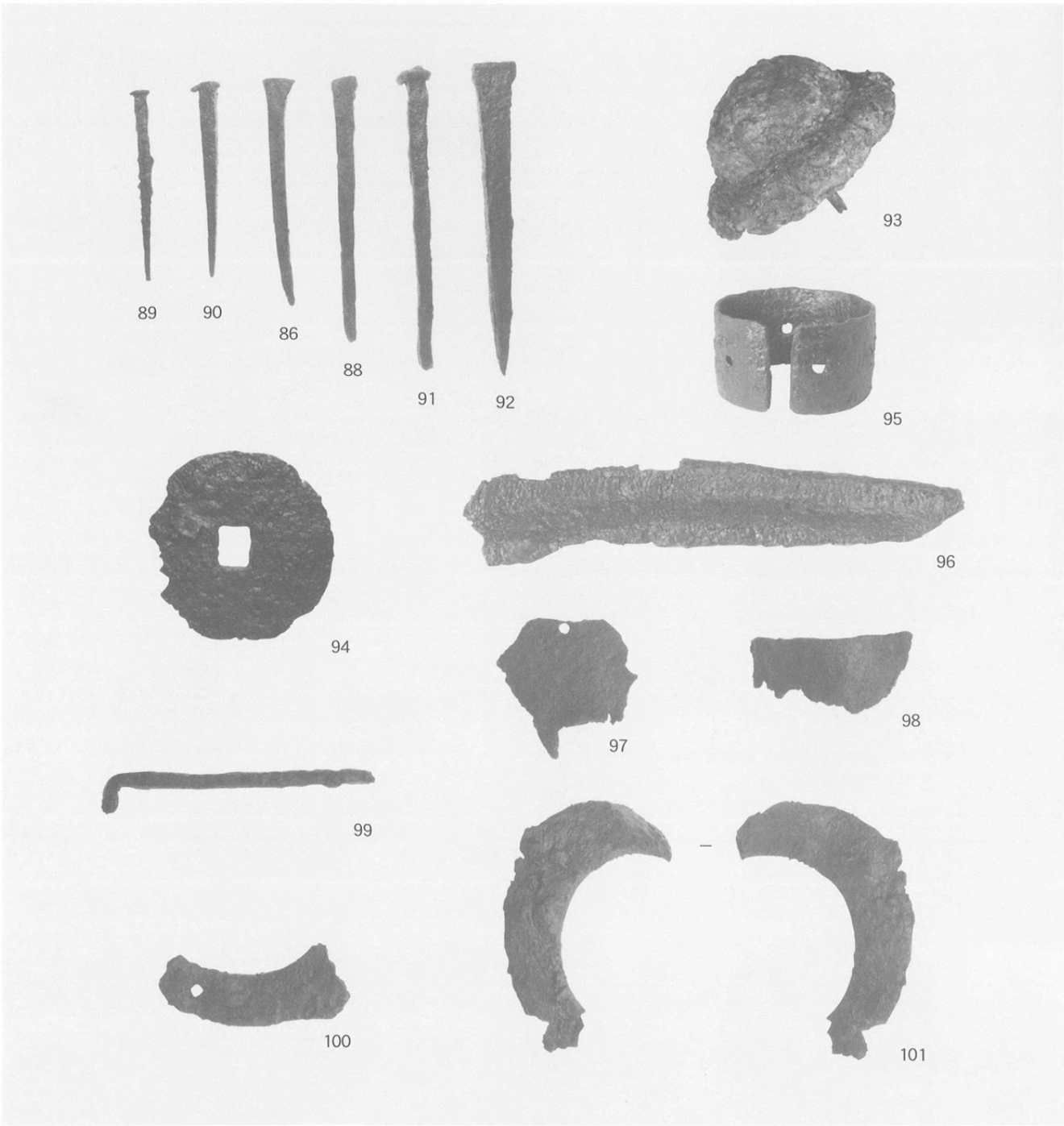
5　中・近世の土器（１）



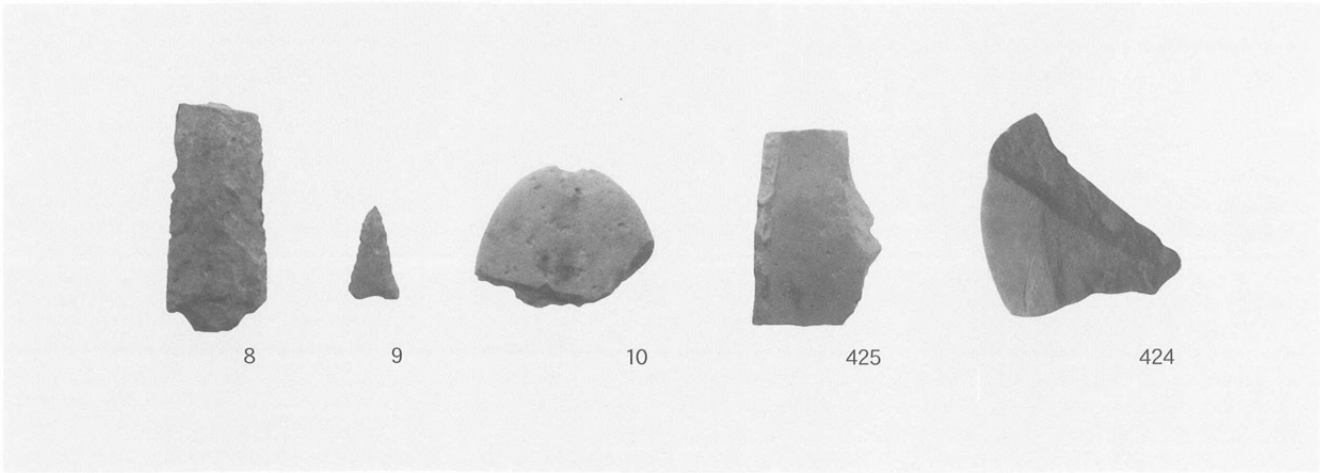
1　中・近世の土器（2）



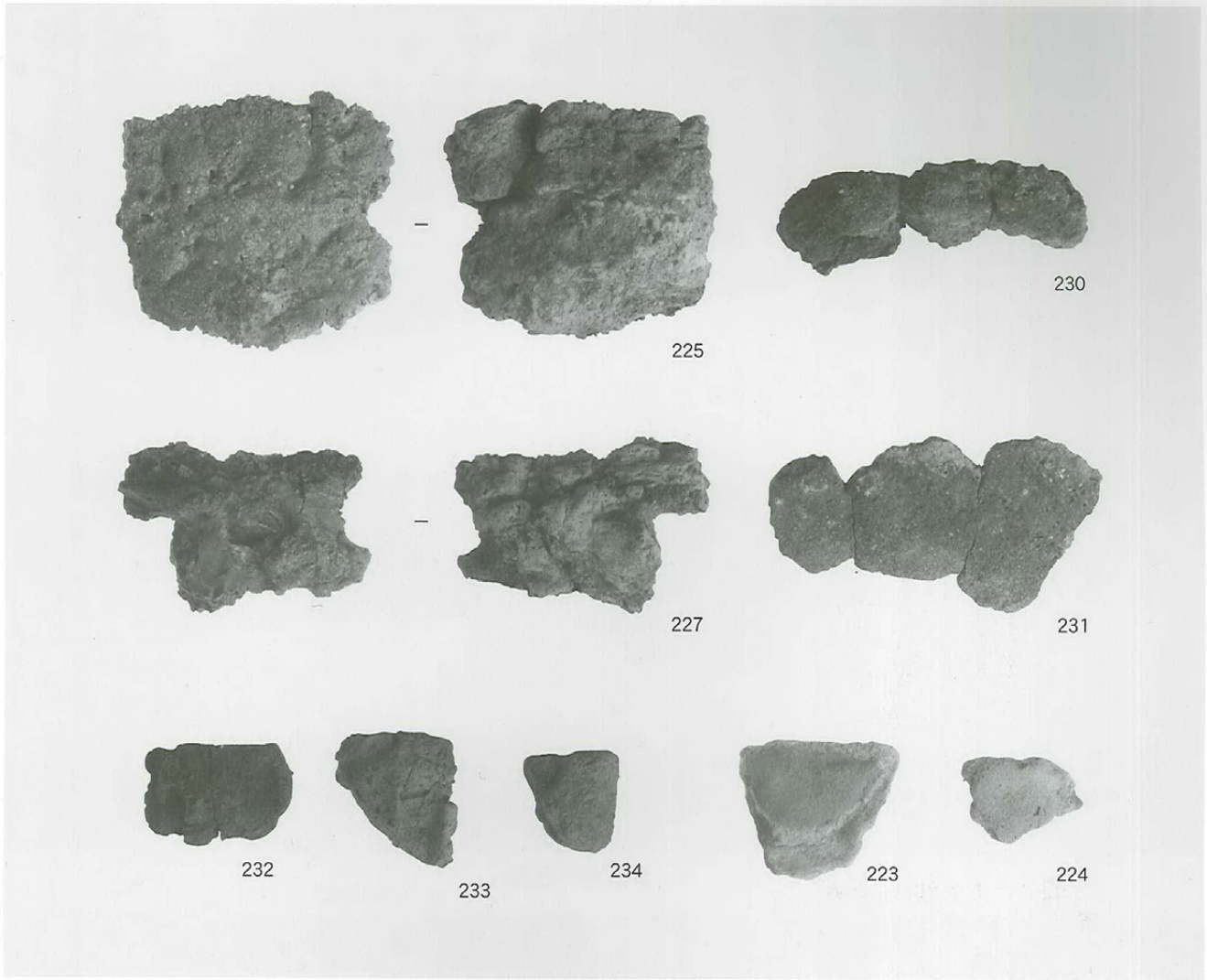
2　土製品



1　鉄製品



2　石器・石製品



1　炉壁等

2　壁土

図版54

1　唐三彩・三彩

2　緑釉・灰釉陶器

報告書抄録

ふりがな	びぜんこくぶんじあと
書名	備前国分寺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	赤磐市文化財調査報告
シリーズ番号	3
編著者名	宇垣匡雅、大熊美穂、有賀祐史、澤山孝之、畑地ひとみ、齋藤努、白石純
編集・発行機関	赤磐市教育委員会
所在地	〒709-0816　岡山県赤磐市下市337　TEL086-955-0710
発行年月日	2009年２月28日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
びぜんこくぶんじあと 備前国分寺跡	おかやまけん 岡山県 あかいわし 赤磐市 まや 馬屋1048 ほか	33213	223	34° 44′ 19″	133° 59′ 59″	2003.06.23 ～ 2004.01.19 2004.06.09 ～ 2005.01.14 2005.06.07 ～ 2006.02.27	1,030 740.4 924.98	史跡整備事業にともなう事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
備前国分寺跡	寺院	奈良時代 平安時代 中・近世	金堂、講堂、回廊、中門、南門、僧房、塔、築地	瓦、須恵器、土師器、唐三彩、三彩、緑釉、灰釉、石硯、備前焼、土製品、石製品、金属製品、炉壁、壁土	文字瓦、鋳銅遺物

要約	備前国分寺跡は国分寺式の伽藍配置をとる。調査によって、寺域は築地に囲まれ、中門と講堂を結ぶ複廊式の回廊をもつことが明らかになった。８世紀後半の創建期から16世紀後半まで、寺院として存続しており、各堂塔の変遷が判明した。講堂、回廊は12世紀半ば～後半に焼失し、講堂は鎌倉時代以降に再建され、南門とともに廃絶まで存続したと推定される。文字瓦が多数出土し、創建期の瓦生産体制をうかがうことができた。

赤磐市文化財調査報告　第３集

備前国分寺跡

平成21年２月27日　印刷
平成21年２月28日　発行

編集・発行　岡山県赤磐市教育委員会
岡山県赤磐市下市337

印　　刷　片山印刷（株）
岡山県岡山市高柳西町11-30